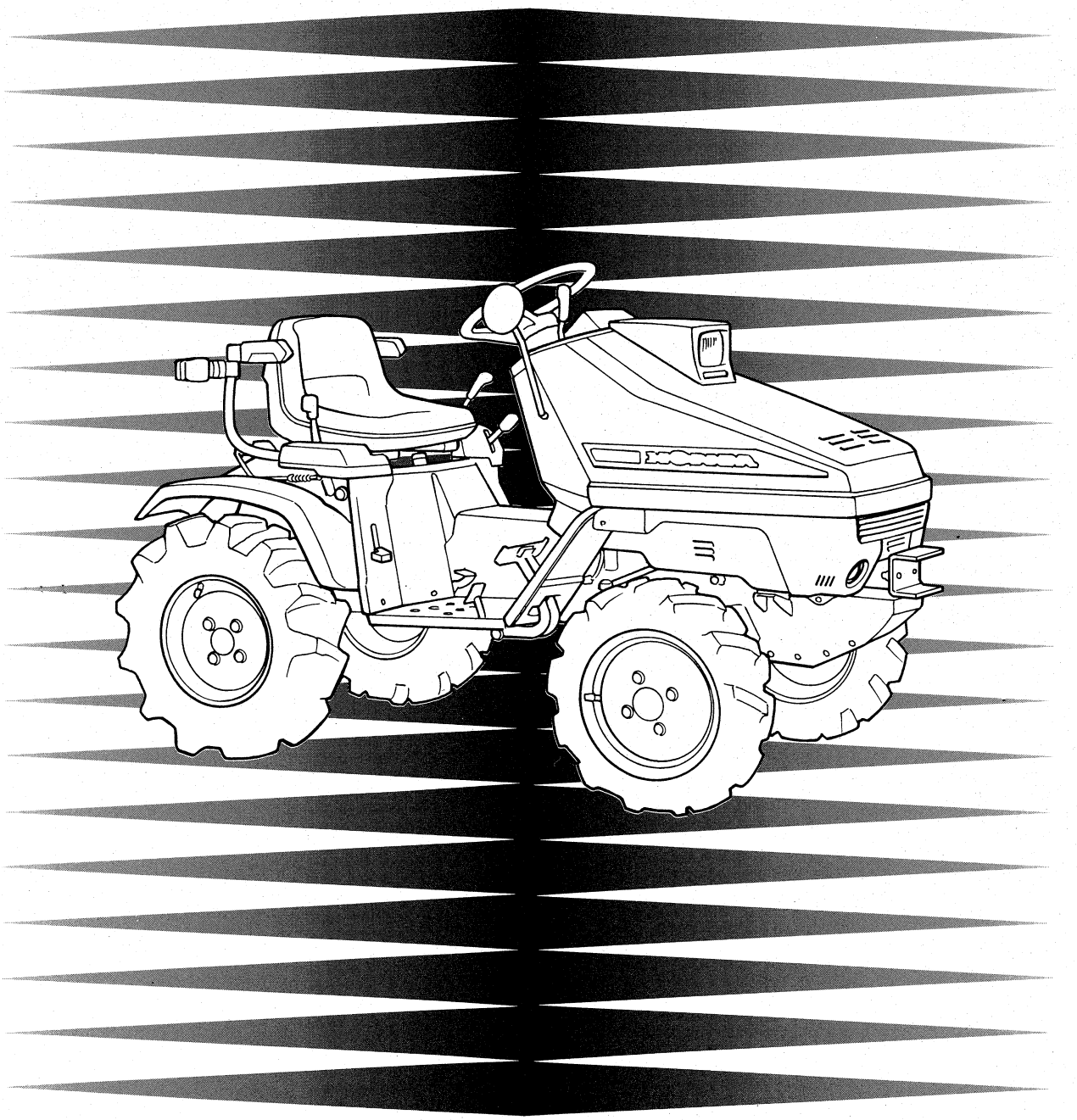
ホンダ マイティ13R

RT1300

取扱説明書



お買いあげありがとうございました。ご使用になる前に
必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

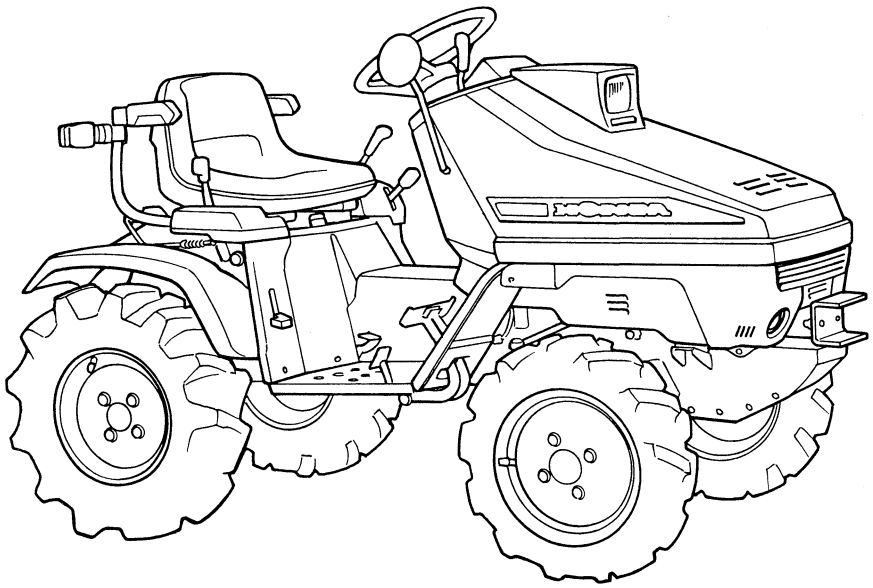
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

リサイクルペーパーを使用しております。

はじめに

このたびはホンダ商品をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、充分理解してからご使用ください。またいつまでもすぐれた性能を発揮できるよう、取扱説明書を日常の手引きとしてご活用ください。
わからない事があったときに読む事ができるように**大切に保管**してください。



・純正部品を使いましょう。
・ホンダ指定アタッチメントを使いましょう。

≪Rタイプ≫

安全に取扱いをしていただくために取扱説明書で(注意)マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

更に、安全に関するポイントを記載した「安全のしおり」を別冊にて添付しておりますのでよくお読みいただいて、必ずお守りください。

なおこの取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

サービスと保証について …… 4
小型特殊自動車について …… 5
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 6
スイッチとメータ パネルについて …… 7
1．エンジン スイッチ …… 7
2．警報ブザー …… 7
3．燃料計 …… 8
4．方向指示器表示灯 …… 8
5．駐車ブレーキ表示灯 …… 8
6．充電警告灯 …… 8
7．エンジン オイル警告灯 …… 9
8．前照灯上向き表示灯 …… 9
9．方向指示器スイッチ …… 9
10．前照灯スイッチ …… 9
11．警音器(ホーン)スイッチ …… 9
運転装置について …… 10
1．エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル …… 11
2．バック ミラー …… 11
3．駐車ブレーキ レバー …… 12
4．ブレーキ ペダル …… 12
5．2WD・4WD切換レバー(2駆・4駆) …… 13
6．デフロック ペダル …… 14
7．P.T.O軸カバー …… 15
8．P.T.O軸変速レバー …… 15
9．主変速レバー、副変速レバー …… 15
10．クラッチ ペダル …… 16
11．チョーク ノブ …… 16
12．ハンドル操作 …… 17
作業機昇降装置について …… 18
1．油圧切換レバー(Lタイプのみ) …… 18
2．リフト レバー …… 18
3．下降速度調整ノブ …… 20
運転する前に点検しましょう …… 21
ボンネットの開けかた、閉めかた …… 21
エンジル オイルの点検 …… 21
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 …… 22
バッテリ液の点検 …… 22
クラッチ ペダル遊びの点検 …… 23
ガソリンの点検 …… 23
タイヤの空気圧、締付けナットの点検 …… 24
ブレーキ ペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検 …… 24

駐車ブレーキの点検 ……25
ハンドルの遊び、ガタの点検 ……25
油圧系オイルの点検 ……25
シートの位置調整 ……26
電装品の点検 ……26
冷却フィン、シュラウドの点検 ……26
空気取入れ口の点検 ……26
運転のしかた ……27
エンジンのかけかた ……27
発進、走行のしかた ……28
旋回のしかた ……30
坂道での運転のしかた ……31
圃場への出入り時の注意 ……32
公道走行時の注意 ……33
停車・エンジン停止のしかた ……34
運搬・保管のしかた ……35
定期手入れを行いましょう ……38
定期点検表 ……39
やさしい点検・整備 ……40
安全装置機構の点検 ……40
1．オイル レベル スイッチの点検 ……40
2．主変速レバーの点検 ……40
3．クラッチ スイッチの点検 ……41
エンジン オイルの交換 ……42
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 ……43
点火プラグの清掃、調整 ……44
バッテリ液量、端子の点検 ……45
ブレーキ ペダルの調整 ……45
燃料ろ過カップの清掃 ……46
変速機オイルの点検 ……46
ヒューズ交換 ……47
ヘッドライト バルブの交換 ……48
車輪の取外し ……49
各部のゆるみ点検、増締め、各部の給油およびグリス塗布 ……50
故障のときは ……51
主要諸元 ……53
配線図 ……55

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

小 型 特 殊 自 動 車 に つ い て

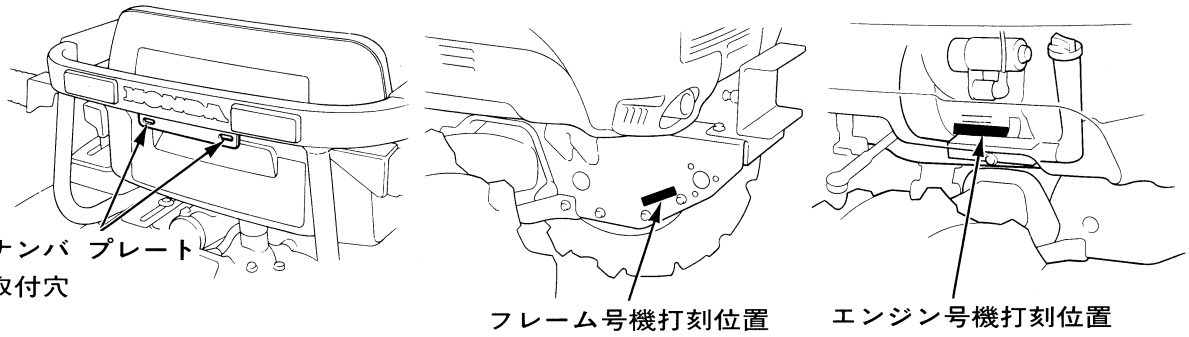
この商品は、道路運送車両法により小型特殊自動車として、運輸大臣の型式認定の認可を受けております。

●小型特殊自動車の届出とナンバ プレートの取付けについて

新たに小型特殊自動車の所有者となられた方は、市町村税条例により、市町村役場に届出、ナンバ プレートの交付を受けなければなりません。（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店へお申しつけください。）

1.小型特殊自動車取得の証明書に軽自動車税を添えて市町村役所に届出てください。届出が済むとナンバ プレートが交付されます。

2.ナンバ プレートをナンバ プレート取付穴に取付けてください。



●運転免許について

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必らず携帯してください。

●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

万一の交通事故補償に備え自動車損害賠償責任保険、任意保険に加入されることをお勧めします。

●小型特殊自動車とは

農耕作業用自動車の場合、車体の全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高２m以下、最高速度15km/h以下、原動機の総排気量1500cc以下の構造を有する物であり、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意してください。

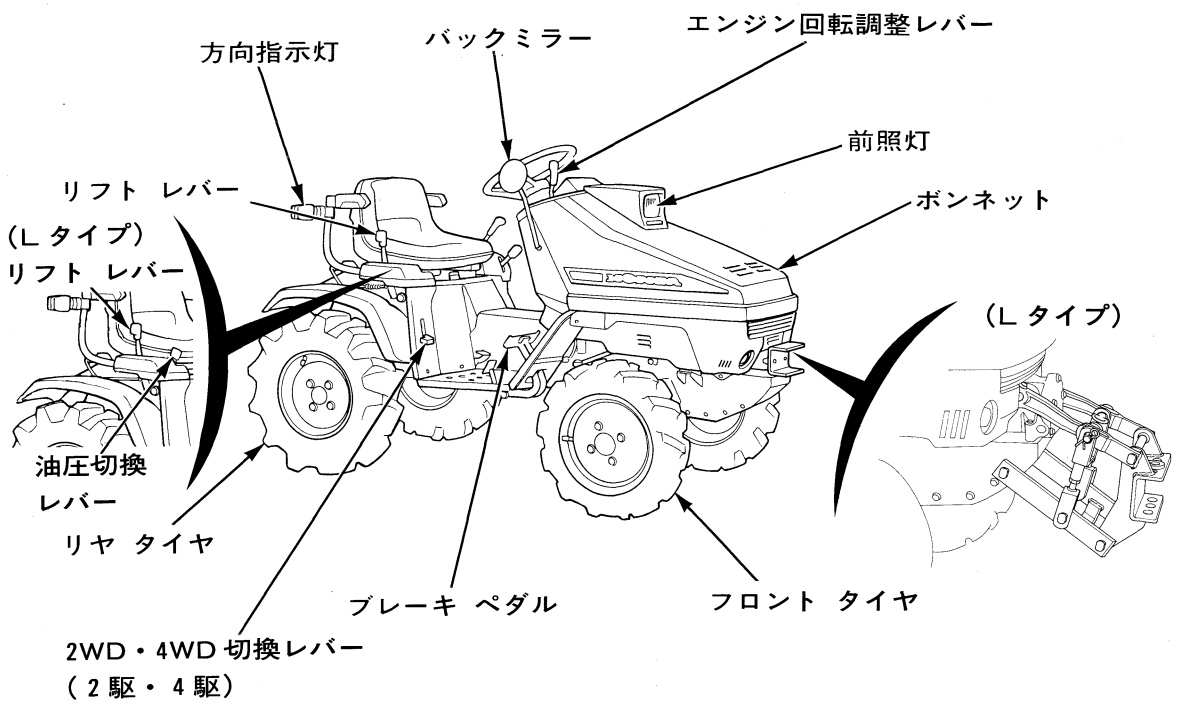
1.認定を受けたエンジン以外は搭載して公道を走行するようなことはできません。

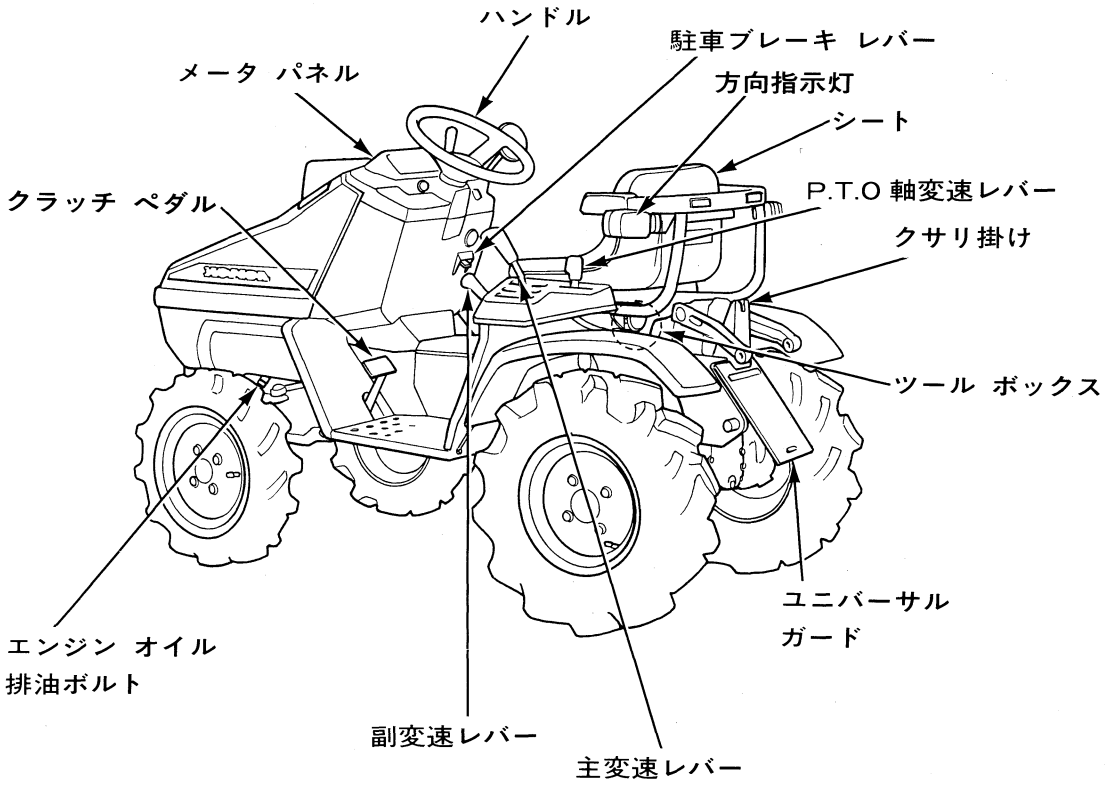
2.認定時の構造を変更した状態では公道を走行することはできません。

3.エンジン及び本機で封印されているところは、大変重要な部分ですのでさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は、保証はできません。

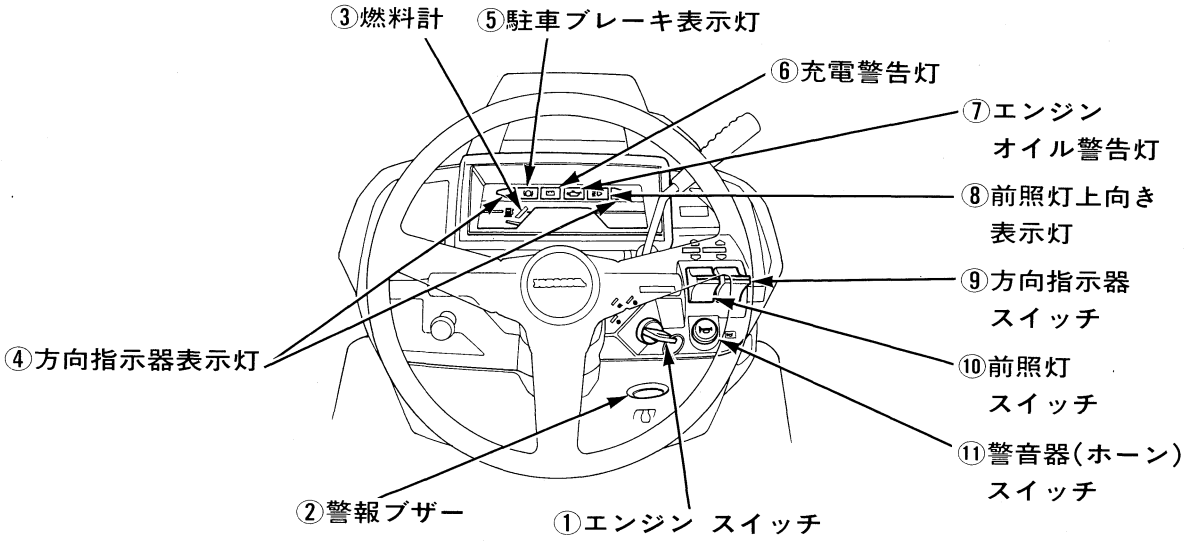
4.作業機を装着したまま公道を走行することはできません。

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう





スイッチとメータ パネルについて



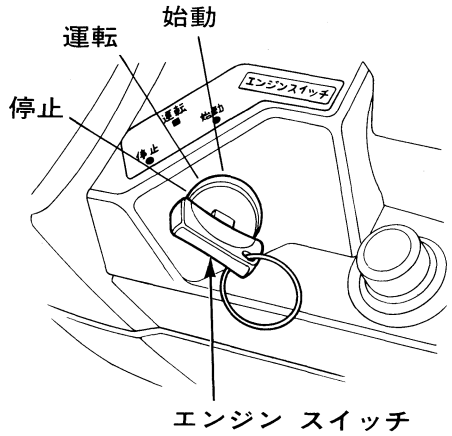
1.エンジン スイッチ

エンジンを〝始動〞、〝運転〞、〝停止〞するために使用します。

始動—エンジンを始動させるときこの位置まで回わします。

運転—エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

停止—エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り位置)

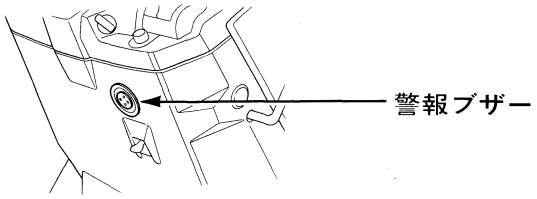


注意

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。

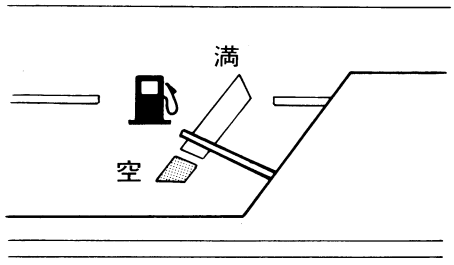
2.警報ブザー

走行中の駐車ブレーキ戻し忘れ防止のために付いています。



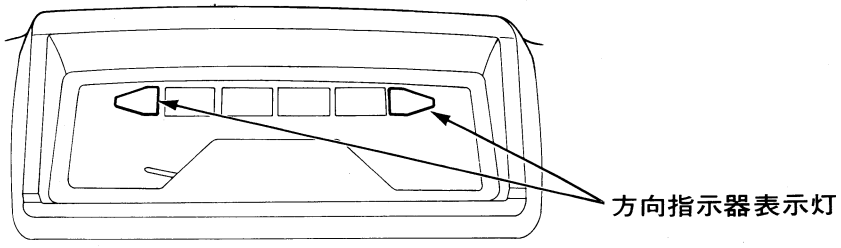
3.燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を表示します。



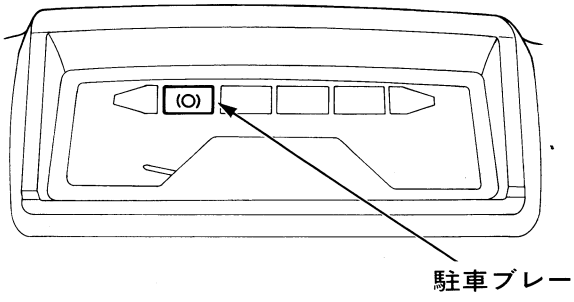
4.方向指示器表示灯

方向指示器スイッチを操作すると点滅します。



5.駐車ブレーキ表示灯

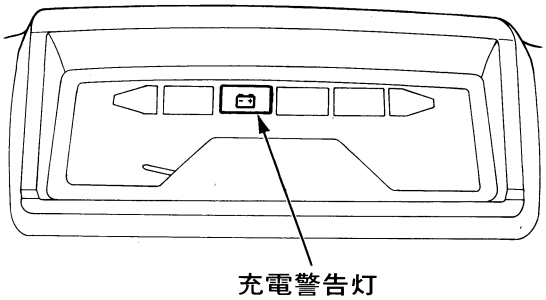
駐車ブレーキをロック(駐車状態)すると、ランプが点灯します。



6.充電警告灯

エンジン運転中、充電系統に異常が発生した場合ランプが点灯します。

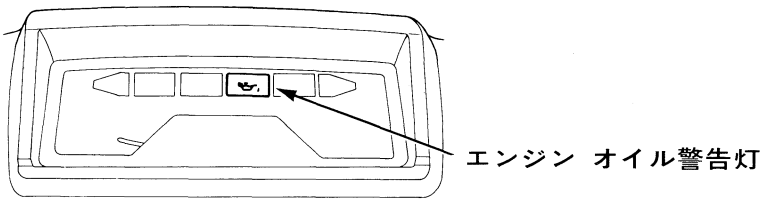
エンジン停止中、エンジン スイッチを〝運転〞にすると点灯し、始動すると消灯します。



7.エンジン オイル警告灯

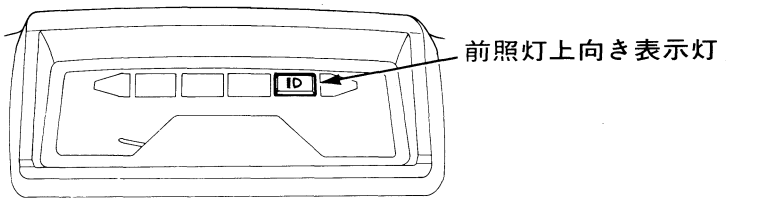
エンジン オイルが不足しているとランプが点灯します。

エンジン停止中エンジン スイッチを〝運転〟にすると点灯し、一定時間後消灯します(オイル量正常時)。



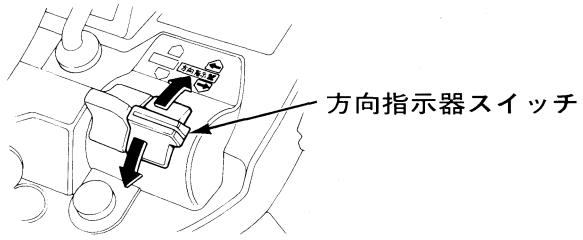
8.前照灯上向き表示灯

前照灯スイッチを上向き側に操作するとランプが点灯します。



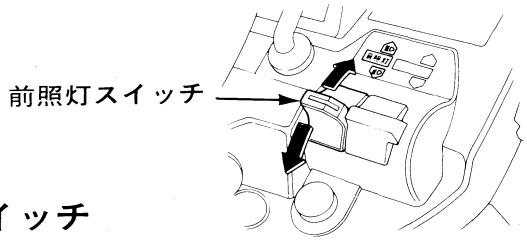
9.方向指示器スイッチ

スイッチを上げると左側、下げると右側のランプが点滅します。



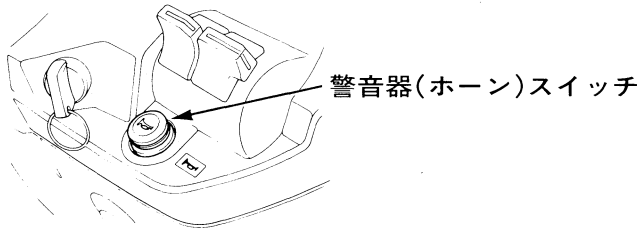
10.前照灯スイッチ

スイッチを上げると上向き、下げると下向きに前照灯が点灯します。

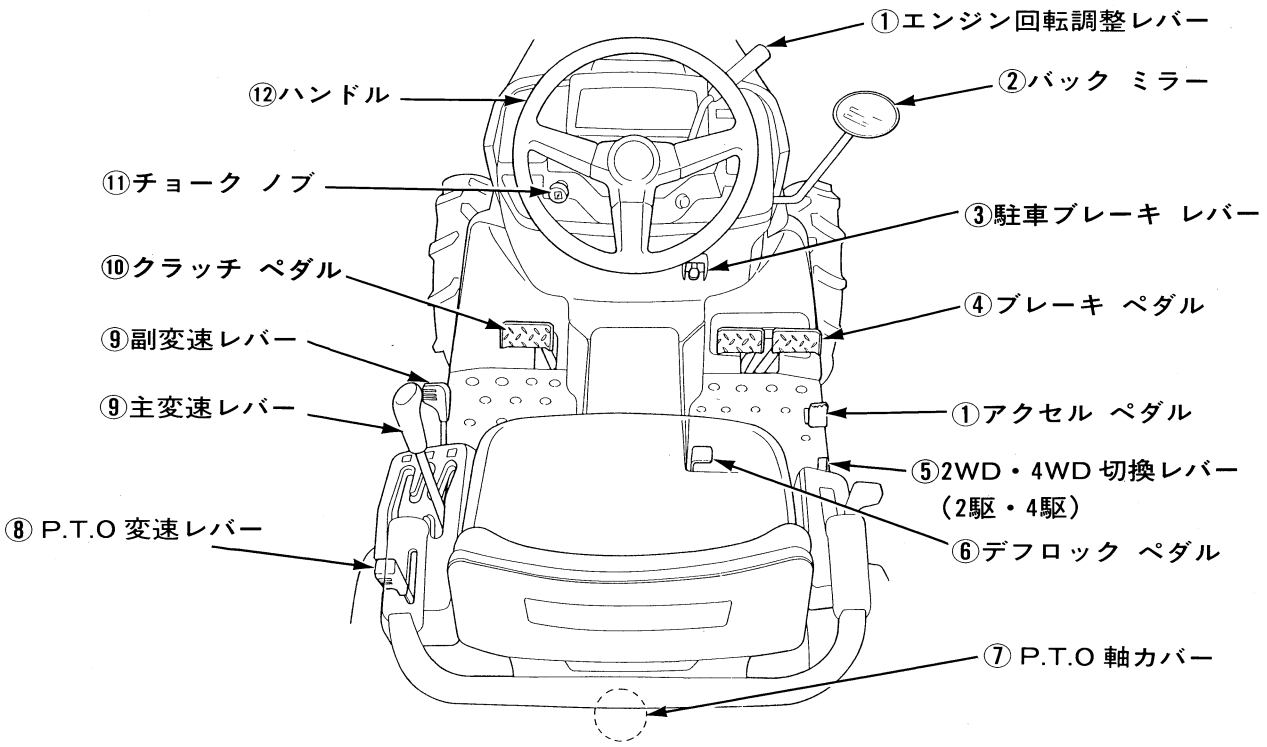


11.警音器(ホーン)スイッチ

スイッチを押すと警音器(ホーン)が鳴ります。



運転装置について


①エンジン回転調整レバー
②バック ミラー
⑫ハンドル
⑪チョーク ノブ
③駐車ブレーキ レバー
⑩クラッチ ペダル
④ブレーキ ペダル
⑨副変速レバー
⑨主変速レバー
①アクセル ペダル
⑤2WD・4WD 切換レバー
（2駆・4駆）
⑧ P.T.O 変速レバー
⑥デフロック ペダル
⑦ P.T.O 軸カバー

1.エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル

アクセル ペダルは回転調整レバーと連動しています。

○エンジン回転調整レバー……主に農作業時に使用します。

（任意の位置で固定できます。）

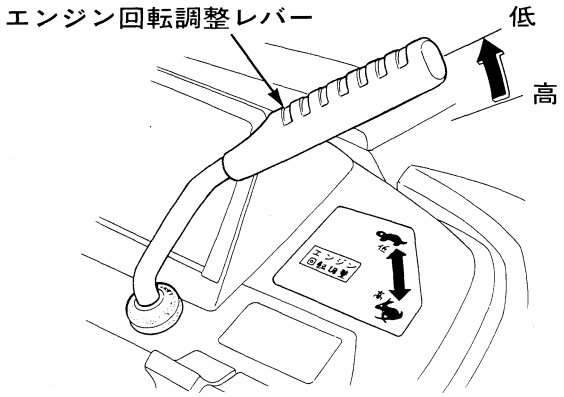
○アクセル ペダル ……主に道路走行時に使用します。

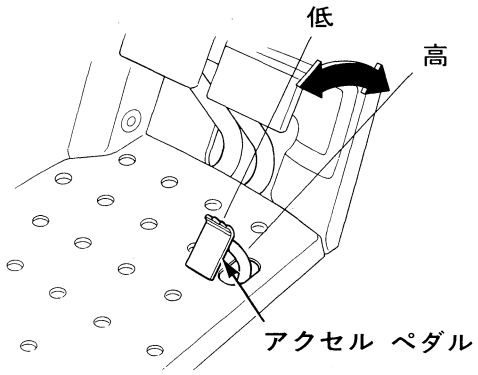
・ペダルを踏み込むと……エンジン回転が上がります。

・ペダルから足を離すと……エンジン回転調整レバーのセットしてある位置まで戻ります。

・道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーを〝低〟の位置に戻してアクセルペダルを使用してください

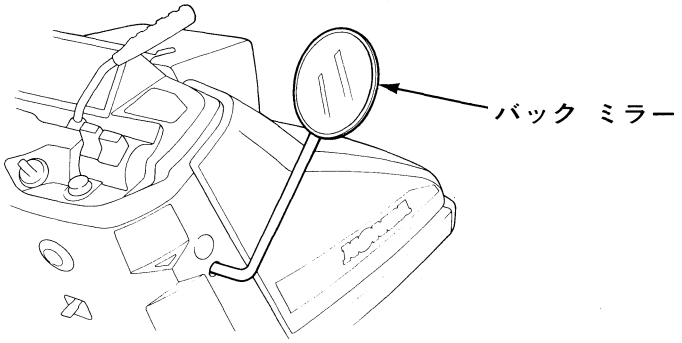
> **注意**
> ・道路走行または移動時には、エンジン回転調整レバーは使用しないでください。
> ・道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーが〝低〟の位置になっていないとアクセル ペダルを離してもエンジン回転が下らず思わぬ事故を起します。





2.バック ミラー

後方視界が十分確認できる位置に調整してください。



3.駐車ブレーキ レバー

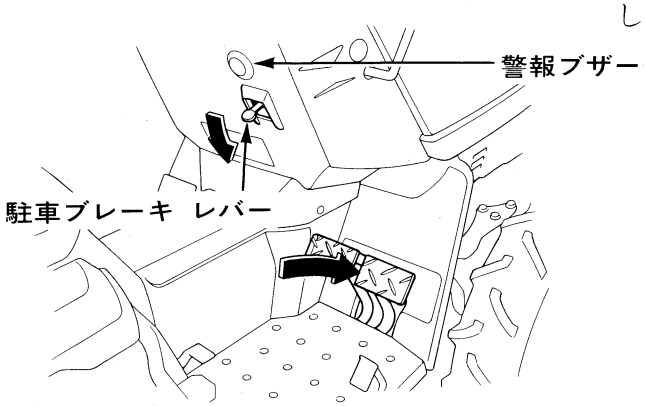
本機を駐車するときに使用します。

1.ブレーキ ペダル(左右連結状態)を強く踏み込みます。

2.①のままで駐車ブレーキ レバーを押し下げます。

3.②のままでブレーキ ペダルを離せばロック(駐車)します。解除するときはブレーキペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。

●警報ブザーは、走行中の駐車ブレーキの戻し忘れ防止のためについています。



4.ブレーキ ペダル

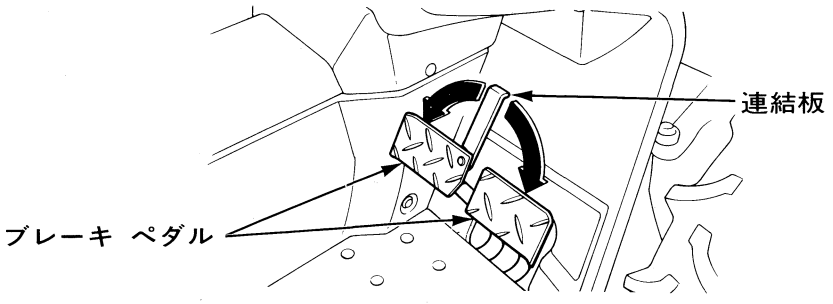
本機を強制的に停止させる時に使用します。自動車と異なり作業時の必要に応じてブレーキを後輪の片輪だけにかけることもできます。

左右を連結した時……道路走行時

連結板を外した時……農作業時（片ブレーキ旋回用）

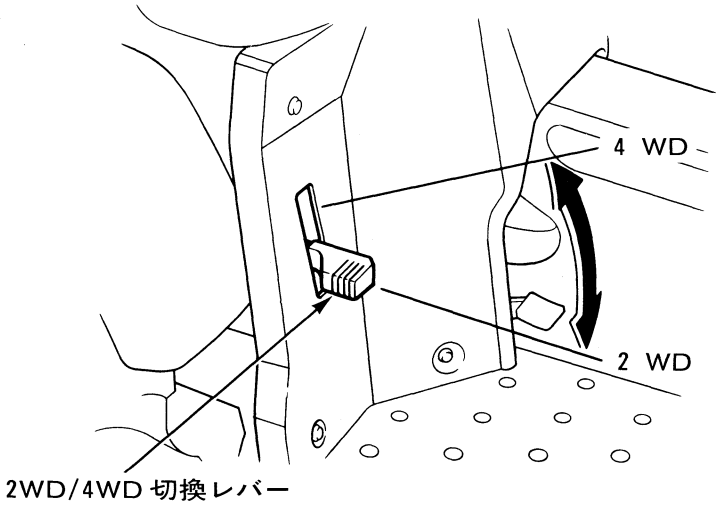
注意

・道路走行中登り坂、下り坂およびアゼ越中は、左右のブレーキ ペダルを必ずセット(連結)してください。



5.2WD・4WD切換レバー（2駆・4駆）

切換レバーを操作(上、下)することにより2WD/4WDの走行ができます。



2WD：　後輪 2 輪で駆動します。

主に道路走行、移動時に使用します。

4WD：　前輪、後輪 4 輪で駆動します。

主に農作業時に使用します。

- ロータリ耕うん時(通常圃場、硬い圃場)
- 傾斜地、トレーラ、スキ作業等のけん引力を必要とする場合
- 湿田での作業
- 圃場への出入、畦越え

切換レバー操作上の注意事項を読んで安全に経済的にご使用ください。

注意

- 2WDと4WDの切換はハンドルを直進状態にして行ってください。
- 2WDと4WDの切換は必ず本機を停止させクラッチ ペダルを踏み込んで操作を行ってください。
  車輪回転時に2WDと4WDの切換は行なわないでください。変速機等に悪影響をおよぼします。
- 4WDの道路走行(特に舗装路面)、作業以外での信地旋回、デフロックの過度の使用はタイヤの摩耗を早め、燃費低下の原因となります。路面の状況、作業状況に応じて2WDと4WDを使い分けてください。
- 急カーブでの4WD走行はブレーキがかかったような状態になります。(この現象は4WD走行時に前輪と後輪の回転数の差によって生じるものです。

6.デフロック ペダル

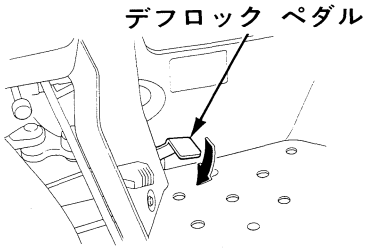
注意 ・デフロックを入れたまま旋回しないでください。もし旋回すると転倒したり思わぬ事故を起こします。

左右の後輪を同じ回転速度で駆動させる装置です。

スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏むと……踏み込んでいる間はデフロックが作動し左右の後輪が同じ回転で駆動されます。

ペダルから足を離すと……デフロックが解除されます。



デフロックの使い方

デフロックは上手に使うと非常に便利ですが、使用方法を誤まると転倒などの危険や故障の原因ともなりますので注意してください。

車輪がスリップしやすいような地面で後輪の片輪のみがスリップする場合に使用してください。

1.農場への出入りや畦越え。

2.フロント ドーザやプラウ作業などけん引が必要なとき。

3.農場の一部軟弱なところで片輪がスリップしたとき。

デフロック操作上の注意

1.踏み込むとロックされます。使わないときは足をペダルに乗せないでください。

2.デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。

3.走行中及び旋回中はデフロックを使用しないでください。又デフロックして旋回しないでください。

4.路上走行時は、絶対にデフロックを使用しないでください。

5.デフロック使用中は、絶対にブレーキを踏まないでください。同時使用すると本機を破損します。

6.デフロックを使った後は、必ず解除されている事を確認してください。

デフロック解除確認方法

・左右どちらかのブレーキ ペダルを踏んで、踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。

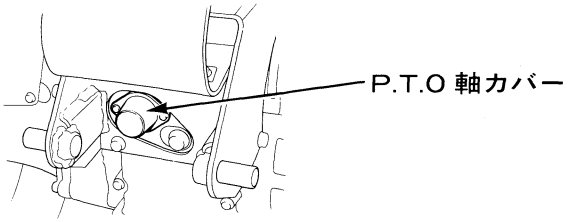
・抜けにくい時は、ハンドルを直進状態にして、交互に軽くブレーキを踏んで抜けを確認してください。

7.P.T.O軸カバー

注意

・P.T.O軸を使用しない時は必ずカバーを取付けてください。カバーを取付けないまま使用すると、P.T.O軸に巻込まれ大変危険です。

P.T.O軸を使用しないときは、グリースを塗布後必ずカバーを取付けてください。

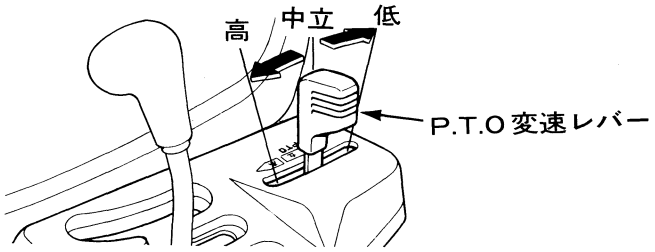


8.P.T.O変速レバー

P.T.O(動力取り出し軸)の回転速度を2段階に変速できます。

注意

・変速を行うときは本機を停止させ、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行ってください。
・P.T.O軸を使用しないときは、P.T.O変速レバーを〝N〟の位置にしておいてください。

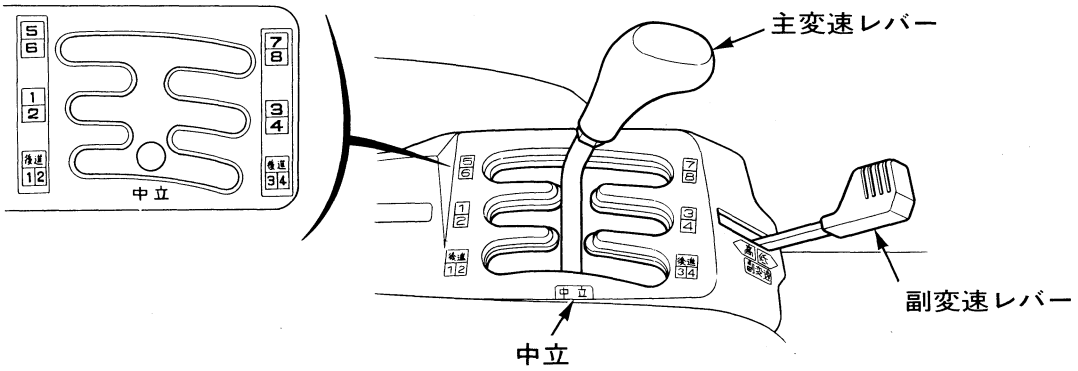


9.主変速レバー、副変速レバー

主変速レバー、副変速レバーを操作することにより前進8段、後進4段の変速ができます。

注意

・変速レバーを操作するときは本機を停止させ、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行ってください。
・超低速度(1、2速)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでもブレーキはきかず、本機を破損します。必ずクラッチ ペダルを踏んでからブレーキ ペダルを踏んでください。



10.クラッチ ペダル

エンジンの動力を走行装置、P.T.O軸に断続させるペダルです。

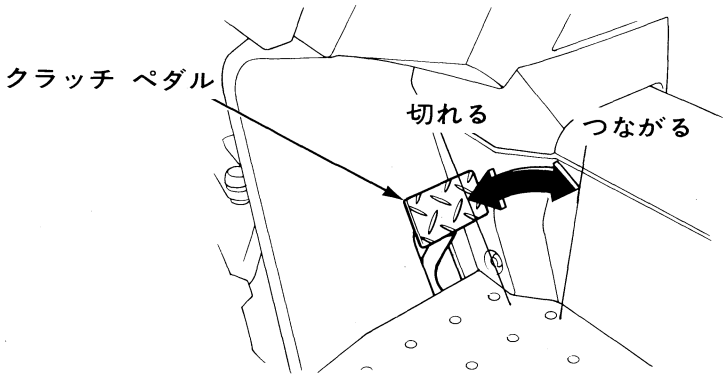
クラッチ ペダルを操作するときは、いっぱいに踏み込んでください。

ペダルを踏み込むと……クラッチが切れます。

ペダルから足を離すと……クラッチがつながります。

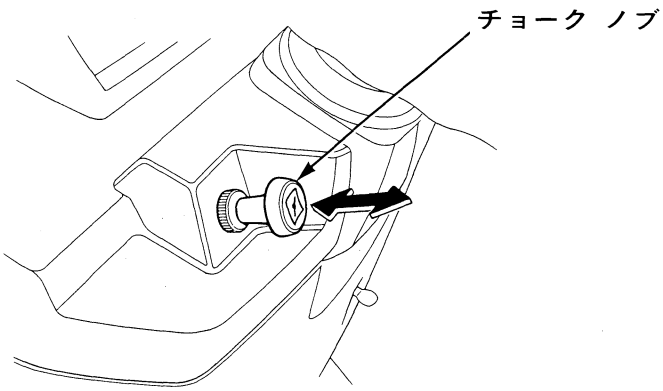
注意

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。



11.チョーク ノブ

エンジンが冷えているとき、またはエンジンがかかりにくいときに操作します。

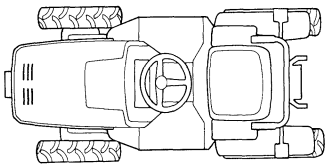


12.ハンドル操作

通常の自動車走行と同じです。

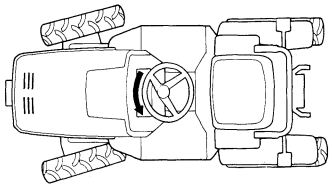
〝ハンドルを切っての発進〞は特に低速で滑かに行ってください。ハンドルを切った状態で前輪が浮く様な急発進をすると、ハンドルを切った方向へ本機が進まず、危険なことがありますから絶対に避けてください。

●ハンドル中立時。



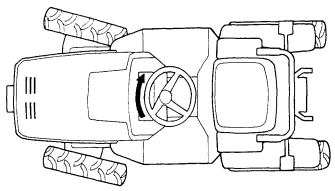
●ハンドルを左へ回す。

左側へ回ります。



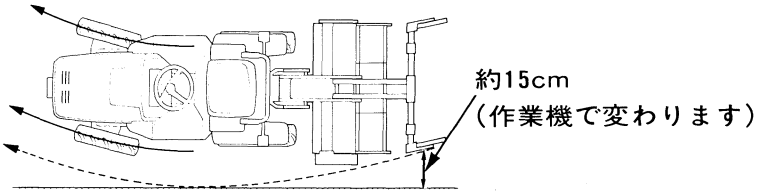
●ハンドルを右へ回す。

右側へ回ります。



●壁ぎわでの旋回

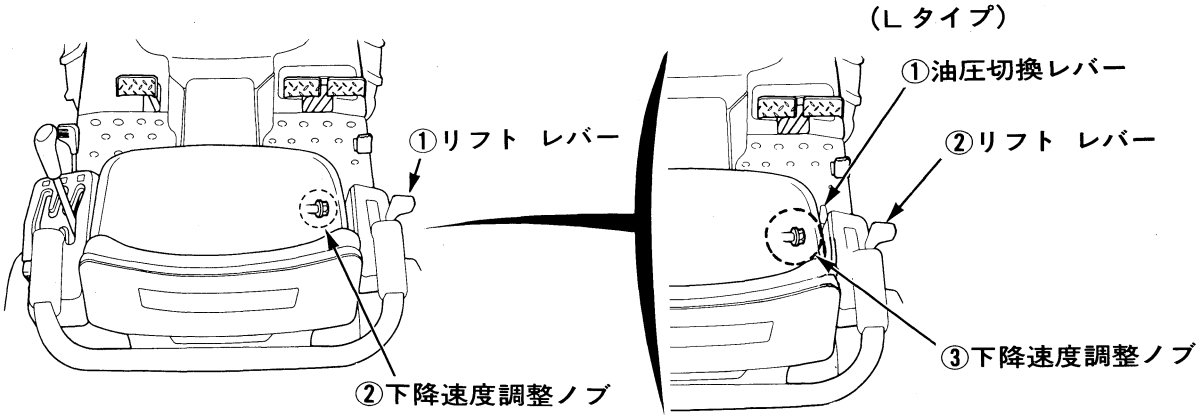
後部作業機後端は相対的に前輪外側よりも少し（作業機で変わりますが15cm位）大まわりしますので、壁ぎわでの旋回時は注意してください。



注意　旋回時には特にスピードを落としてハンドル操作を行ってください。

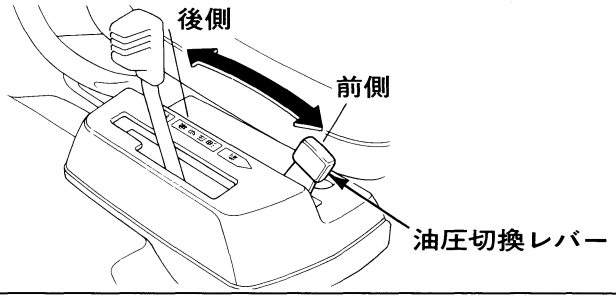
作業機昇降装置について

油圧装置はエンジン回転中、レバーを操作すると、クラッチの断続に関係なく作動します。



1.油圧切換レバー（Lタイプのみ）

レバーを操作することにより、前側、後側の油圧切換えを行います。



注意

・油圧切換レバーがストッパまで確実に切換えられていることを確認してください。途中の位置では使用しないでください。

2.リフト レバー

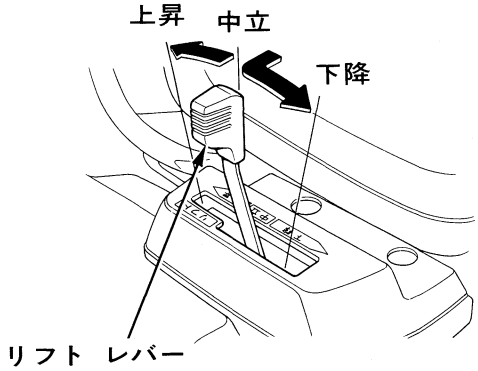
・レバーを操作することにより作業機の〝上昇〟、〝下降〟ができます。

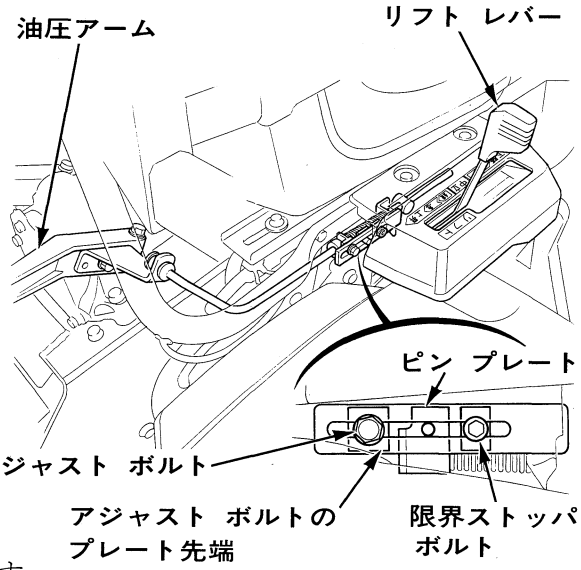
・エンジンが停止状態でも、リフト レバーを〝下降〟にすると作業機が下降します。

・リフト レバー ガイド溝部には2モーション レバー ガイド プレートが取付けてあります。リフト レバーを下降にするには、〝中立〟位置から一旦右へ押し付けながら前方へレバーを倒します。〝下降〟から〝中立〟への戻しは手前に引くだけでできます。

・本機には 〝緩下降〟、〝緩上昇〟 モードがついています。
〝中立〟 位置から少し 〝上昇〟 側へ作動させると作業機がゆっくり上昇します。

〝中立〞位置から少し〝下降〞側へ作動させると作業機がゆっくり下降します。
作業中の上下微調整にお使いください。





●アジャスト ボルトを調整することにより、作業機の〝上昇〞高さを規制することができます。

注意	・調整中は人や、動物を近づけないよう注意してください。思わぬ事故を起こします。

調整方法：

Ⅰ①作業機を規制したい高さに〝上昇〞させます。

②アジャスト ボルトをゆるめます。

注意	・アジャスト ボルトをゆるめる時は、エンジンを〝停止〞にしてください。 ・限界ストッパ ボルトをゆるめないように注意してください。本機に悪影響を与えます。

③リフト レバーを〝上昇〞側へ作動させ、アジャスト ボルトのプレート先端をピン プレートに押しあて、アジャスト ボルトを締付けます。

④リフト レバーを一端〝下降〞側へ作動させます。次にリフト レバーを〝上昇〞側へ作動させ、作業機が規制したい高さになっていることを確認してください。

Ⅱ①再度、作業機を規定の高さに戻す場合は、作業機を取外し、油圧アームを手で持ち上げ、限界ストッパ ボルトにピン プレートとアジャスト ボルトのプレート先端を押しあて、アジャスト ボルトを締付けてください。

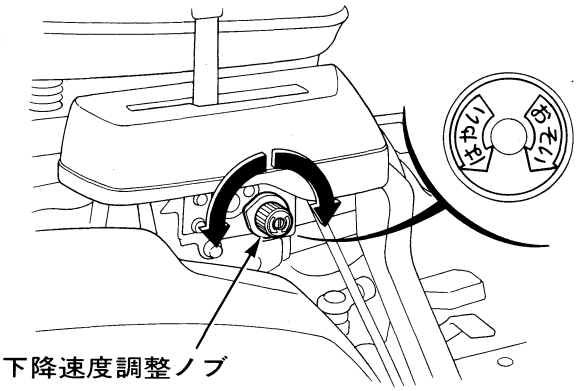
3.下降速度調整ノブ

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます(上昇速度は調整できません)。

〝おそい〟(右方向)に回わすと……下降速度が遅くなります。

〝はやい〟(左方向)に回わすと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回わすと……下降しなくなります（点検、調整時使用します）



注意

- 調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- 下降速度は作業機の重量によってかわります。
- 作業機の下降速度は、最上位位置から接地するまで1～2秒が適当です。
- 調整ノブは一気にゆるめないでください。¼回転ごとに確認してください。
- 調整ノブは、同梱のドライバーを使って手で軽く回してください。強く締付けるとバルブを破損します。
- 作業機を点検、調整する場合には、作業機の急下降を防止するため下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱいに締めてください。リフト レバーを〝下降〟の位置にして、作業機が落下しないか必ず確認してください。確認後リフト レバーを中立の位置に戻してください。ロータリ等のクサリ付の作業機を装着している時は、クサリを併用してください。
- 下降速度を調整する時は、作業機を地面に降した状態で行ってください。
- 本機には緩下降モードがついています。下降速度を調整する時は、リフト レバーを〝下降側〟一杯に作動させて調整してください。

運転する前に点検しましょう

注意
・安全のため点検前に必ずエンジン スイッチ キーを外してください。
・点検は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。

故障を未然に防ぐには、本機の状態をいつもよく知っておくことが重要です。「運転をする前の点検」は毎日必ず行ってください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

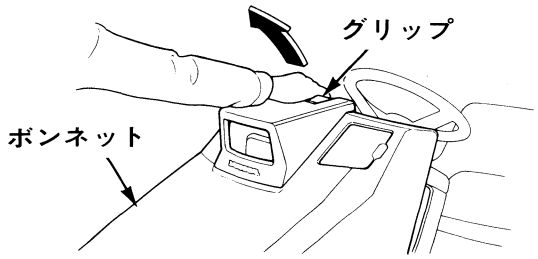
・開けかた

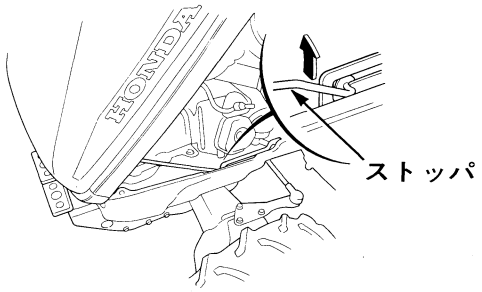
グリップを握りボンネットがストッパにより固定されるまで上方に引き上げてください。

・閉めかた

グリップを引き上げてから、ストッパを外して閉めてください。

注意
・ボンネットを閉めるときは、周囲に人がいないか注意して、ゆっくりと閉めてください。

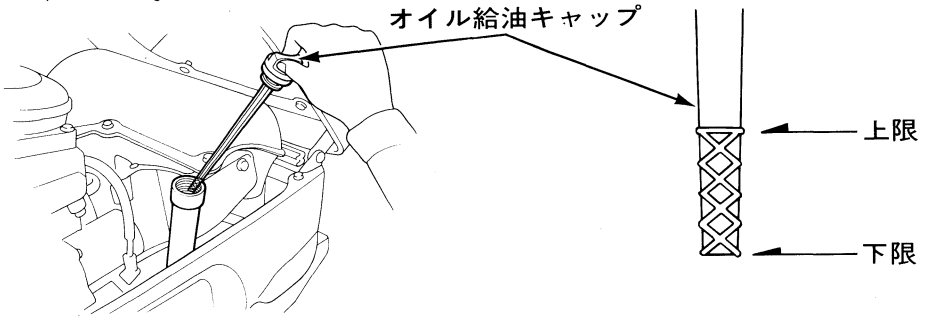




エンジン オイルの点検

点　検

オイル給油キャップ付近のほこりを取り除き、オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近いときには上限までオイルを補給(42頁参照)してください。



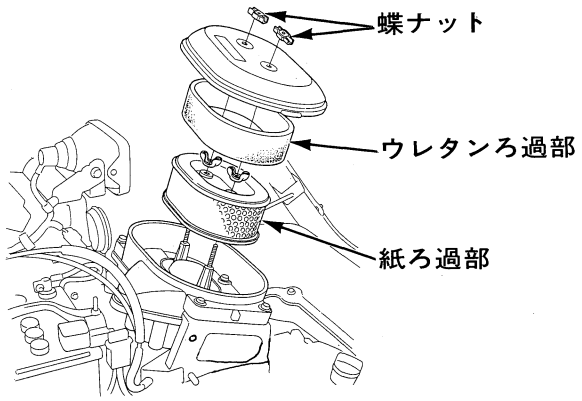
注意
・キャップは確実に締付けてください。締付がゆるいとオイルがもれる事があります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

1.蝶ナットを外し、空気清浄器カバーを取外します。

2.ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。

3.汚れがひどい場合はろ過部の清掃を行ってください。 (43頁参照)

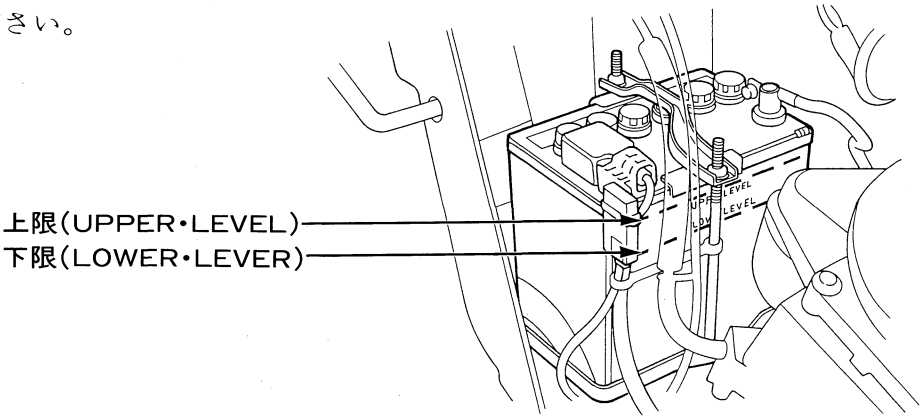


注意

- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動で、カバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部を装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。

バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER・LEVEL)と下限(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。



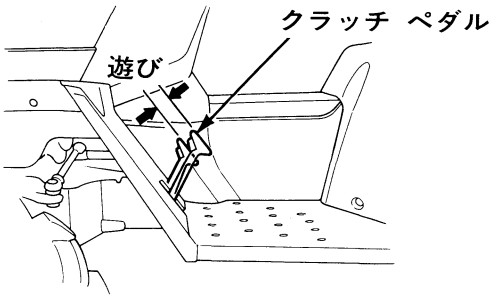
液が少ないときは45頁を参照して補給してください。

注意

- バッテリを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。
  (バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。)
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、すみやかに専門医の診察を受けてください。

クラッチ ペダル遊びの点検

クラッチ ペダルの遊びを点検してください。もし遊びが2 mm以下になったときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

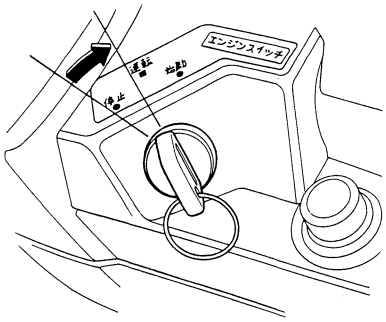


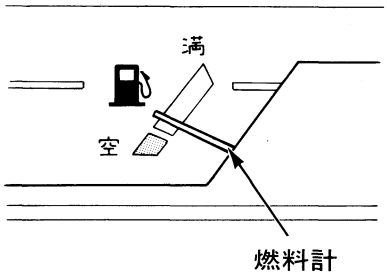
ガソリンの点検

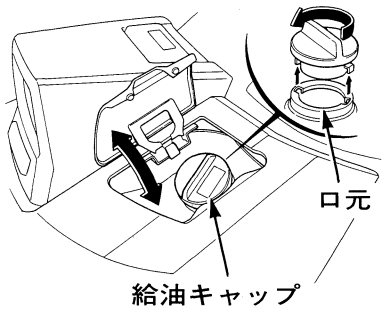
点　検

エンジン スイッチを〝運転〟にしてから燃料計を確認してください。もし少ない場合は補給してください。

燃料計はエンジン スイッチ位置〝運転〟で作動します。







補　給

エンジン スイッチを〝停止〟にしてください。

給油キャップを外し、給油口の口元以下に補給してください。

使用ガソリン：無鉛レギュラ ガソリン

タンク容量：8.5 ℓ

補給後給油キャップを確実に締め付けてください。

エンジン スイッチを〝運転〟の位置に回し、燃料計が〝満〟の位置にあるか確認してください。

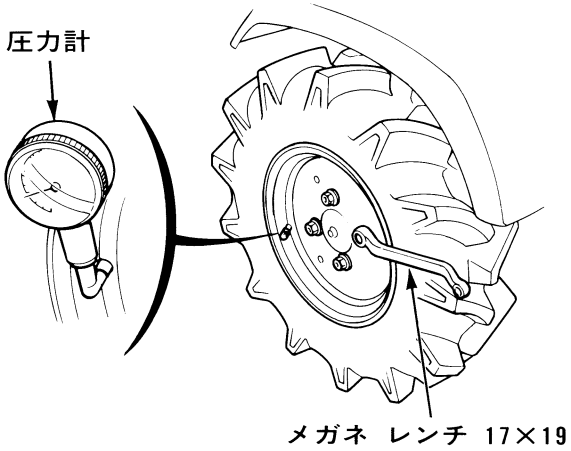
注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンを止めてから補給してください。
- ガソリンはこぼさないでください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾いてから始動してください。

タイヤの空気圧、締付けナットの点検

●圧力計でタイヤの空気圧を点検してください。
空気圧：前輪　1.2kg/cm²
後輪　1.0kg/cm²
空気圧が高すぎたり、低すぎたりしている場合は、規定の空気圧にしてください。

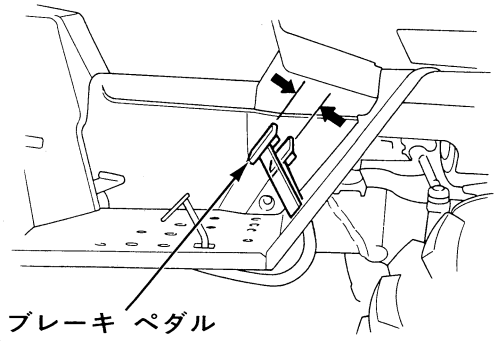
●締付けナットを１つづつ同梱のメガネ レンチで確認し、ゆるい場合は確実に締付けを行ってください。



ブレーキ ペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検

1.遊びの点検

ブレーキ ペダルを踏み込んで遊び代が規定値になっているか確認してください。また左右の踏み込み量が異なっていないか確認してください。
調整は45頁を参照してください。
遊び代　25mm

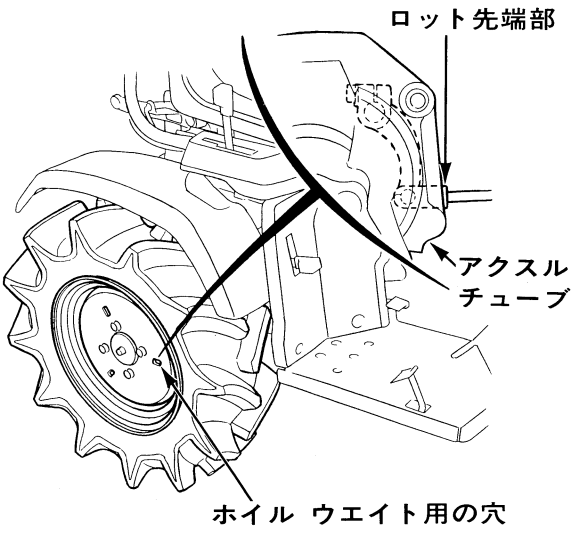


2.ブレーキ摩耗限界の点検

ブレーキ摩耗の状態を下記のように点検します。

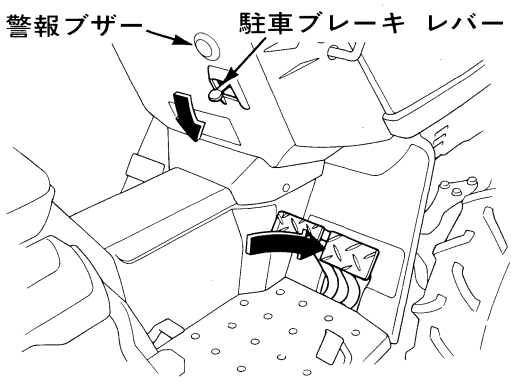
> 注意
> ・点検は左右のブレーキ ペダルの遊び代を同一にした状態で行なってください。
> ・左右どちらか一方でも限界に達している場合はライニングを交換してください。

ホイル ウエイト用の穴が図の様な位置にくるように停車してください。ブレーキ ペダルを連結した後、ブレーキ ペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキをロックしてください。ホイル ウエイト用の穴から図のようにロット先端が見えるかどうか確認してください。もしロット先端が見えましたらお買いあげいただいた販売店にお申しつけください。



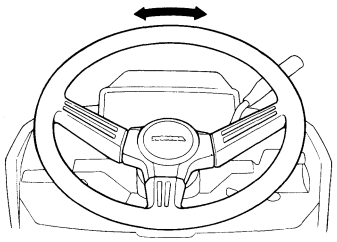
駐車ブレーキの点検(この点検はエンジン スイッチ キーを使用します)

駐車ブレーキのロックが確実に行える事を確認してください。駐車ブレーキをロック状態にしてクラッチ ペダルを踏み込み、エンジンスイッチを"運転"にして主変速レバーを入れ(中立以外)警報ブザーが鳴り続ける事を確認してください。この状態で駐車ブレーキを解除したとき警報ブザーが止まれば正常です。



ハンドルの遊び、ガタの点検

ハンドルの遊び30mm以下であること、また異常なガタがないことを確認してください。もし異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

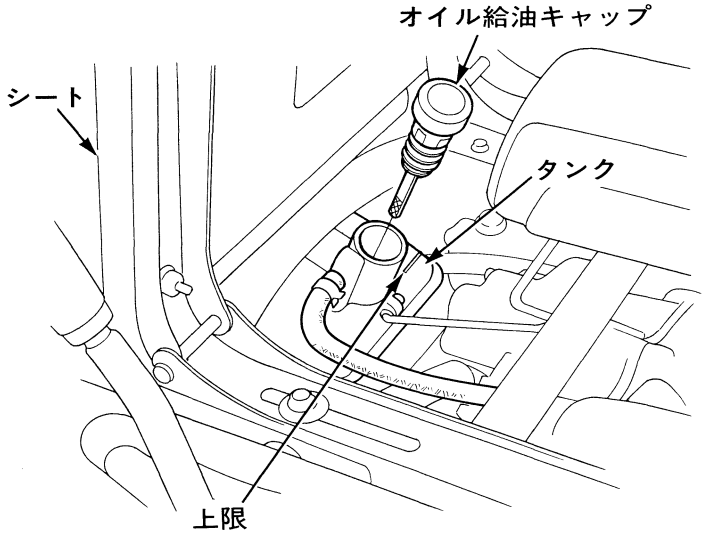


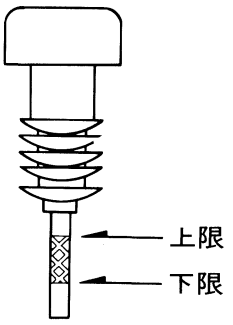
油圧系オイルの点検

> 注意 ・点検する前に必ずアタッチメントを取外しリフト アームを最下降位置まで手で押し下げてオイル給油キャップを外し、キャップを差し込んでオイルの量を点検してください。油面が下限に近いときはタンクの上限までオイルを補給してください。

指定オイル:ホンダ純正パワー ステアリング フルード

急激に減っているときは、油圧系統の異常が考えられます。お買いあげ販売店へお申しつけください。

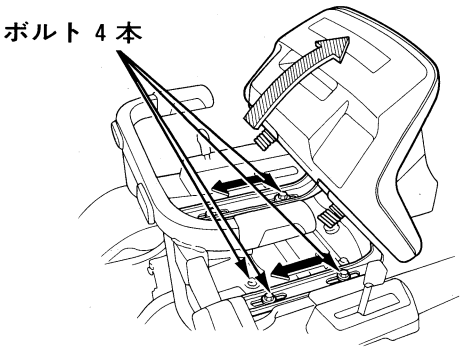




シートの位置調整

運転に適した位置にシートを調整してください。

調整は取付けボルトをゆるめて行い、調整後確実に取付けボルトを締付けてください。



電装品の点検(この点検はエンジン スイッチ キーを使用します)

エンジン スイッチを〝運転〞の位置にして、次の項目を点検してください。

1.前照灯の点灯、消灯確認

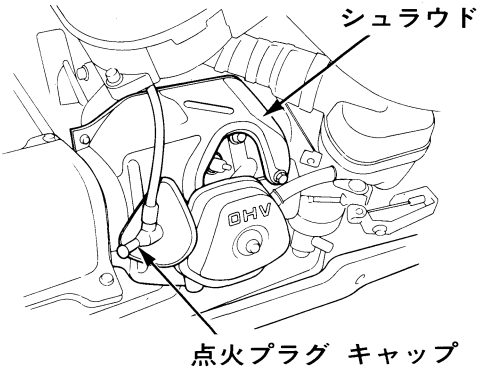
2.方向指示器、点滅の確認

3.警音器(ホーン)の確認

4.メータ パネル内の表示灯の作動確認

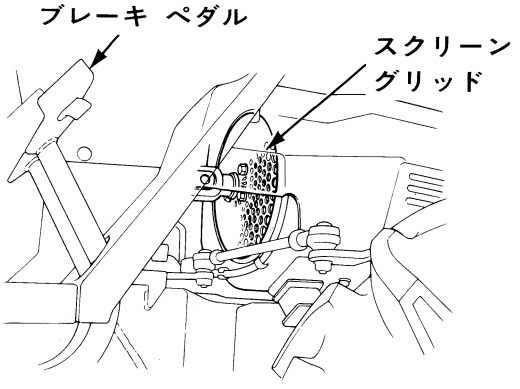
冷却フィン、シュラウドの点検

点火プラグ キヤップを外しシュラウド内のゴミを取り除いてください。汚れているときはきれいに清掃してください。清掃後、点火プラグ キャップを確実にプラグに差し込んでください。



空気取入れ口の点検

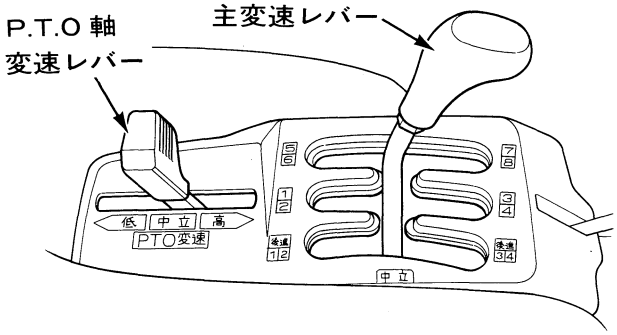
スクリーン グリッドの汚れ、ゴミを取り除いてください。

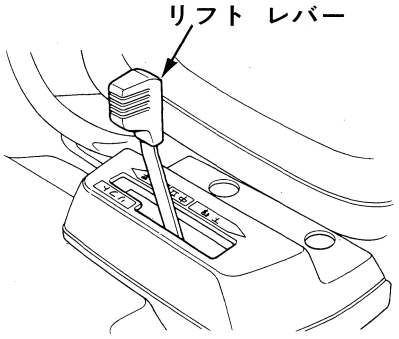


運　転　の　し　か　た

エンジンのかけかた

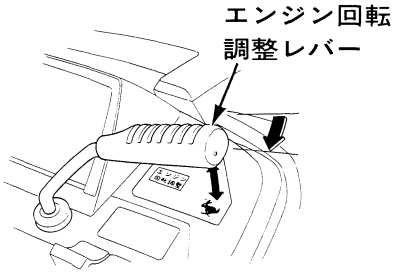
1.シートにすわり、主変速レバー、P.T.O軸変速レバー、リフト レバーを〝中立〟位置にしてください。

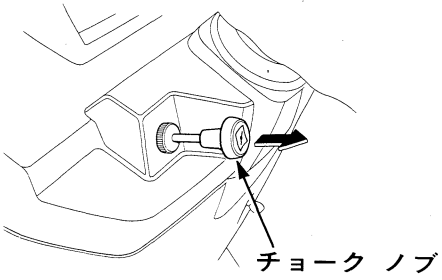




2.エンジン回転調整レバーを少し(中程)引いてください。

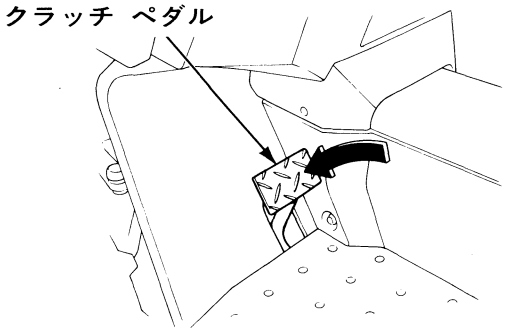
・エンジン冷間時にはチョーク ノブを引いてください。

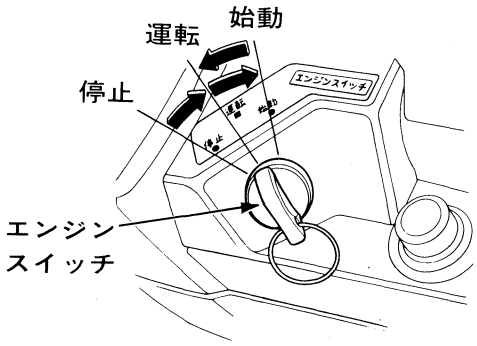




3.クラッチ ペダルをいっぱいに踏み込んで、エンジン スイッチ キーを〝始動〟の位置まで回わしてください。エンジンが始動したらキーより手を離してください。自動的に〝運転〟の位置まで戻ります。

> 注意　・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセル モータは回転しません。





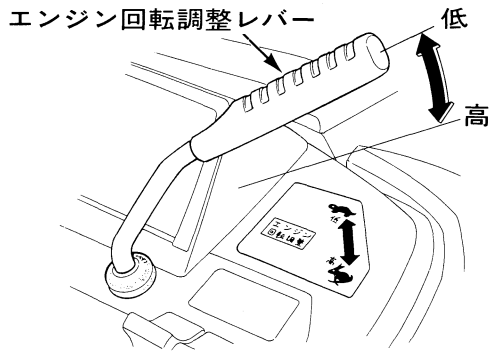
セル スタータ使用上の注意

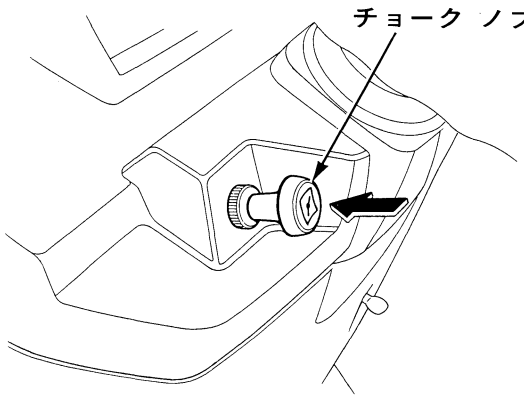
セル モータは大電流を消費しますので10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして30秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。

4.チョークを使用したときは、エンジン暖気後、回転が安定したら、元に戻してください。

・エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置に戻してください。

> 注意　エンジン回転調整レバーが高の位置になっていると急に飛び出し大変危険です。必ず低の位置にしてください。



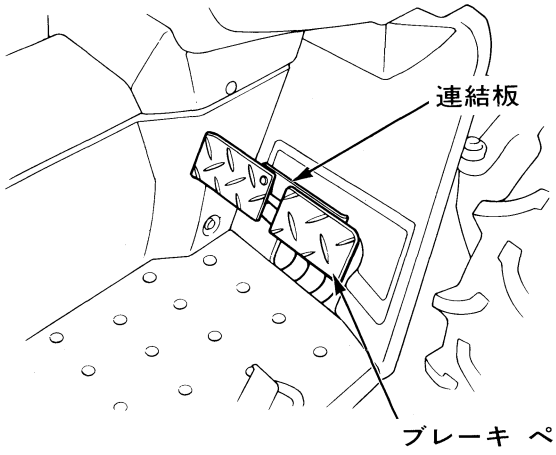


発進、走行のしかた

> 注意　・発進は必ず、駐車ブレーキを外してから行ってください。
> ・作業機を付けている場合は、リフト レバーで作業機を十分に上げて、クサリ等で落下防止の処置をしてください。

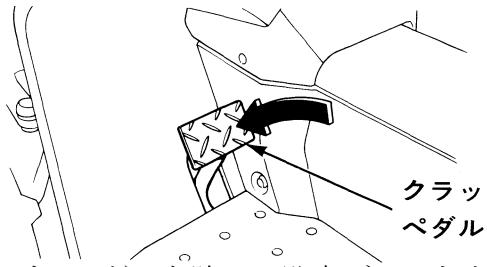
1.ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

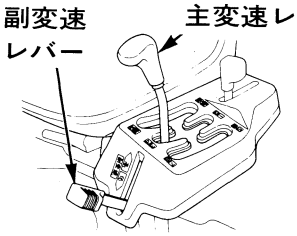
2.作業機を取付けているときは、リフト レバーで作業機を上げてください。



2. クラッチ ペダルを踏み込んで、主、副変速レバーを使用する位置に入れてください。主変速レバーを入れたときに、駐車ブレーキ戻し忘れ警報ブザーが鳴ります。

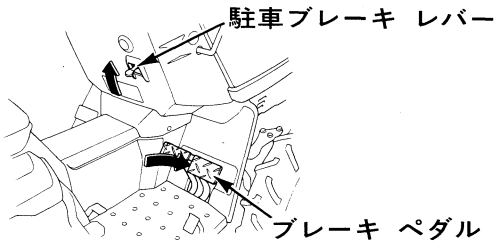
注意
・走行中に変速はできません。必ずクラッチ ペダルをいっぱい踏み込んで本機を停止させてから行ってください。





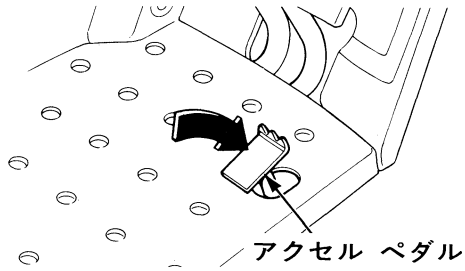
3. ブレーキ ペダルを踏んで駐車ブレーキを解除してください。警報ブザーは止まります。

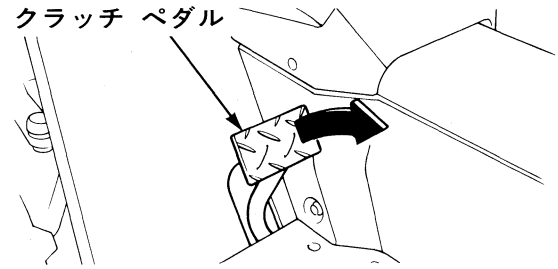
注意
・駐車ブレーキは必ず解除してください。



4. アクセル ペダルを少し踏み、クラッチ ペダルをゆっくり離してください。スムーズに発進ができます。

注意
・本機を動かす前には、前後左右に注意してください。
・急にクラッチ ペダルを離すと急に飛び出し危険ですので、必ずクラッチ ペダルはゆっくりと離してください。
・走行中はクラッチ ペダルの上に足を乗せないでください。またクラッチを切るときは素早く行ってください。





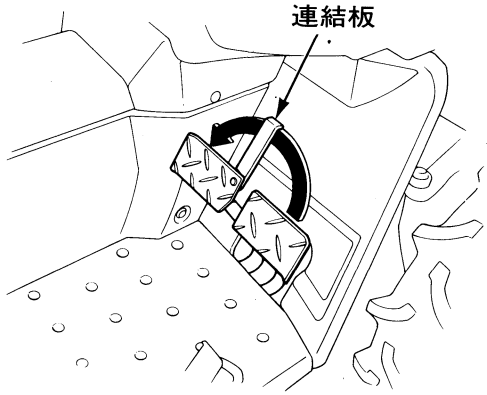
注意
・急にクラッチ ペダルを離すと、急に飛び出し危険ですので注意してください。

旋回のしかた

旋回する前に必ずデフロック ペダルの解除を確認してください。(14頁参照)

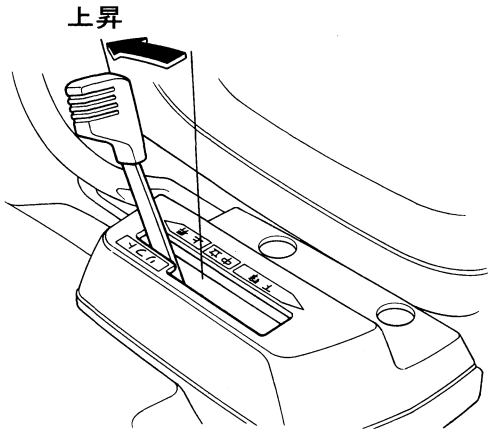
旋回するときは、エンジン回転を落とし車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

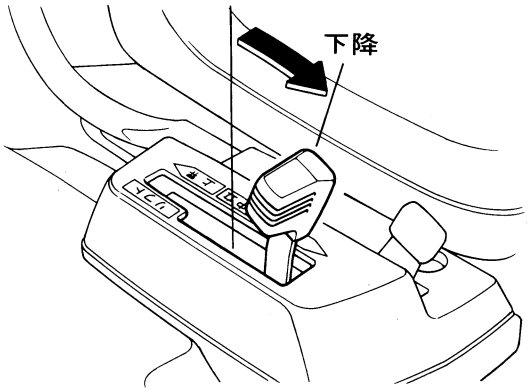
1.圃場での作業時に片ブレーキが必要な場合は、ブレーキ ペダルの連結板を外して、右、左単独にブレーキが効くようにしてください。



2.耕うん作業等で旋回する時は、作業機をリフトレバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

(旋回時リフトレバー上昇)　　**(旋回後リフトレバー下降)**





3.信地旋回(片ブレーキ旋回)の時には、ハンドルを旋回方向へ回わしながら旋回方向のブレーキ ペダルを踏み車輪をロックさせて旋回してください。

旋回完了後ブレーキを解除し、ハンドルを戻してください。

注意
- あぜぎわで旋回するときは、旋回する前に必ず速度を落としてください。
- 旋回時は、周囲を十分確認して旋回してください。
- 高速では絶対に旋回しないでください。横転等、重大な事故につながります。

坂道での運転のしかた

坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

1.登り坂の場合

・坂の手前で一担停止して、主変速を低速に入れクラッチ ペダルを静かに離してください。

・ブレーキ ペダル左右のセット(連結)を確認してください。

2.下り坂の場合

・坂の手前で一担停止して、エンジン回転を〝低〟にして変速レバーを低速にして、エンジン ブレーキを使用してください。

・クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。

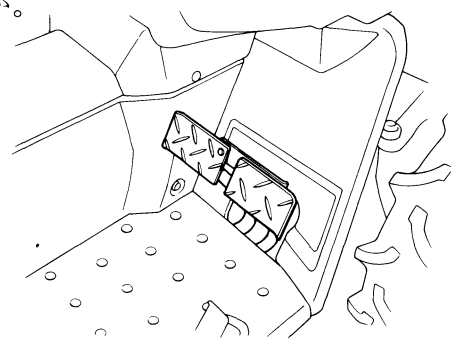
・ブレーキ ペダル左右セット(連結)を確認してください。

注意

・ブレーキ ペダルのセット(連結)はしてありますか。
・デフロックの解除を必ず確認してください。(14頁参照)
・坂道では主変速を中立にしたり、変速操作やクラッチを切ったりしないでください。
・坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は、駐車ブレーキをロックして、車輪止めをしてください。
・登り坂での発進はとくにゆっくりと行ってください。
・等高線作業はしないでください。上下耕作業で行ってください。(傾斜角度10度以内)

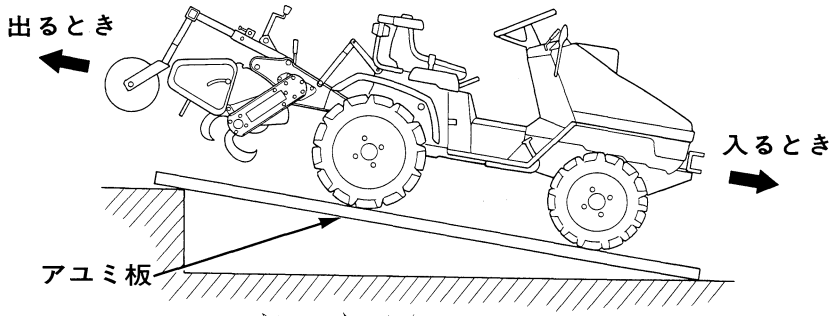
圃場への出入り時の注意

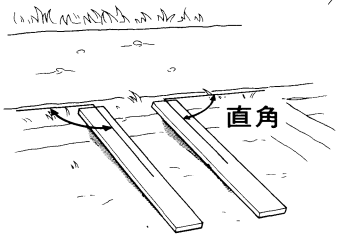
1.ブレーキ ペダルのセット(連結)はしてありますか。



2.圃場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。

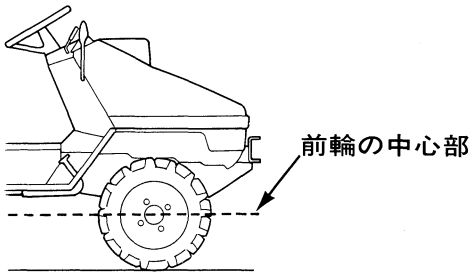
注意　・あぜ道と圃場への出入りは、斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。





湿田での注意

土質等で異なりますが前輪の中心部より車輪が沈むような場所では使用しないでください。



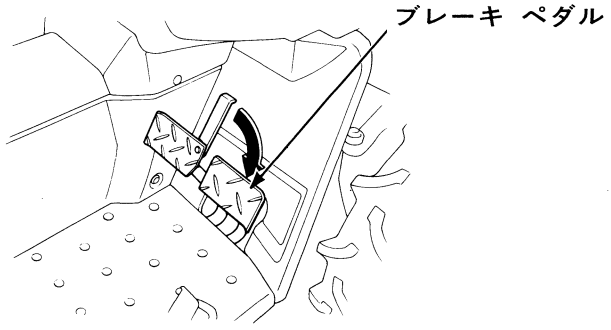
公道走行時の注意

注意　公道を走行するときは、必ず免許(小型特殊)を携帯して、交通ルールをお守りください。

1.公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。

2.夜間走行中、対向車とすれちがうときには、前照灯を下向き照射にして、対向車の妨害にならないよう注意してください。

3.ブレーキ ペダルは必ずセット(連結)してください。

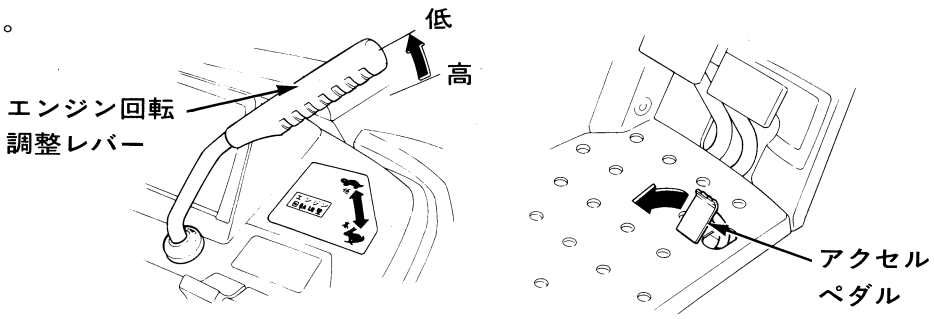


4.作業機を装着して公道を走行する事はできません。道路運送車両法に違反となります。

注意
- 公道走行中はデフロックは使用しないでください。
- 公道走行するときは、関係法規を守り安全運転に心がけてください。
- 本機は乗車定員1名です。運転者の他は乗せないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。
- ブレーキ ペダルをセット(連結)していないと、ブレーキが片効きになり、本機が急旋回して、転倒、転落などを引きおこし大変危険です。

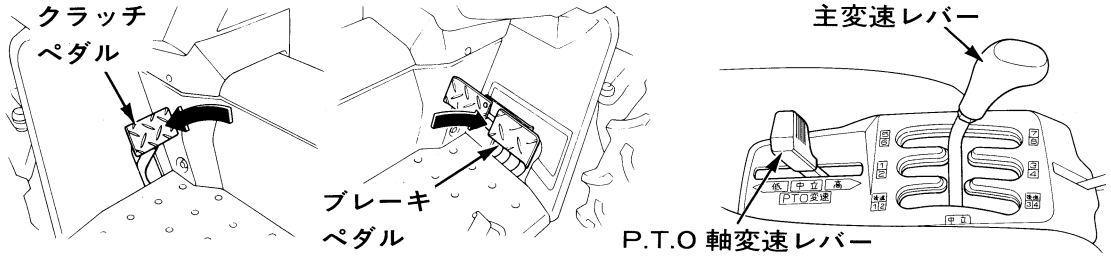
停車・エンジン停止のしかた

1.エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にしてください。またはアクセル ペダルを離してください。

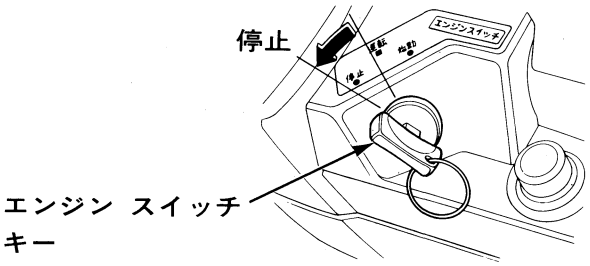


2.クラッチ ペダルを踏み込み、同時にブレーキ ペダルを踏込みます。完全に本機が停止してから、主変速、P.T.O軸変速レバーを〝中立〟にしてください。

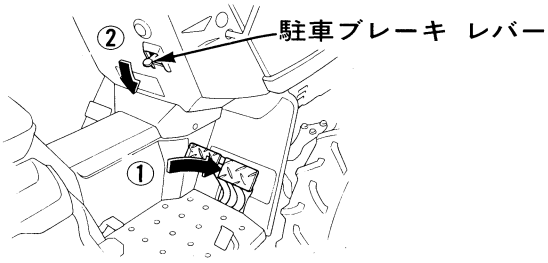
・作業機を取付けている場合は、リフト レバーで作業機を地面まで下げてください。



3.エンジン スイッチを〝停止〟にしてキーを外してください。



4.駐車ブレーキを確実にロックしてください。



注意　本機をやむをえず坂道の途中で止めておく場合は、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。

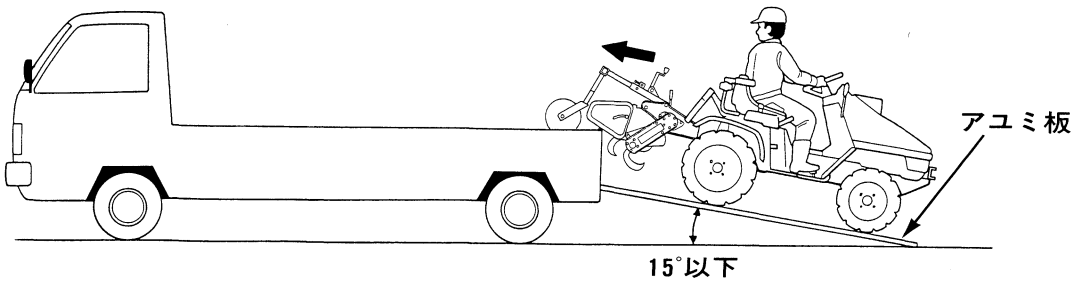
運　搬　・　保　管　の　し　か　た

運搬(トラックへの積込み、積降ろし)

1.積込む時は、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。

2.本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。

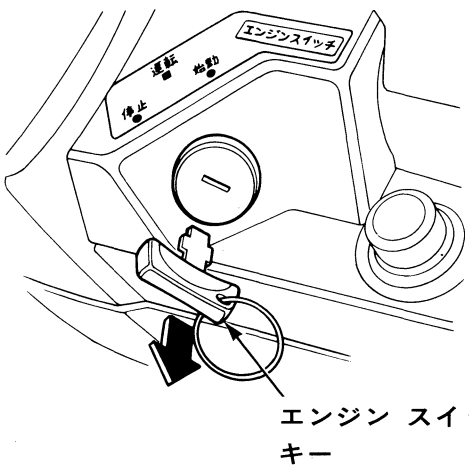
3.ハンドル操作は落輪しないように慎重に行ってください。

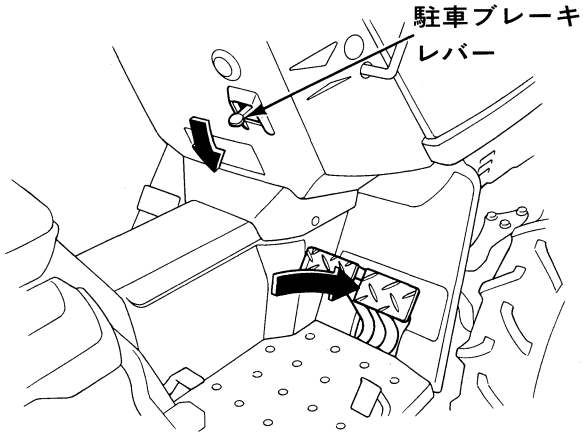


注意

- 万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキ ペダルを踏み、次にクラッチペダルを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら、平担な所まで移動してください。再度エンジンを始動して積込み作業を行ってください。
- 必ず左右のブレーキ ペダルはセット(連結)してください。
- 積込み、積降ろし作業は2人以上で安全を確認してから行ってください。

2.積込み後は、エンジン スイッチ キーを外して、駐車ブレーキをロックして、ロープで本機を確実に固定してください。



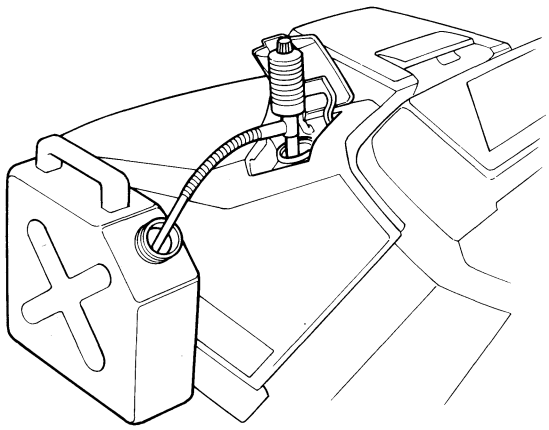


3.積降ろしは、積込みの逆の手順で安全に注意して行ってください。

保　管

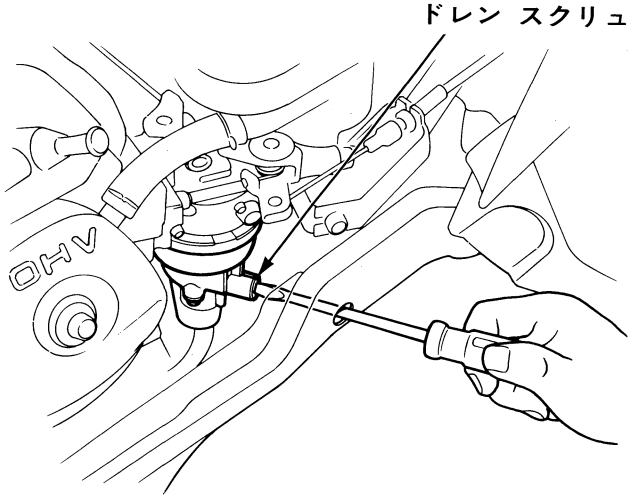
本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行った後格納してください。

1.燃料タンク内のガソリンを抜いてください。



2.気化器(キャブレータ)内のガソリンを抜いてください。

ドレン スクリュをゆるめて容器にガソリンを抜いてください。完全に抜けたらドレン スクリュを確実に締付けてください。



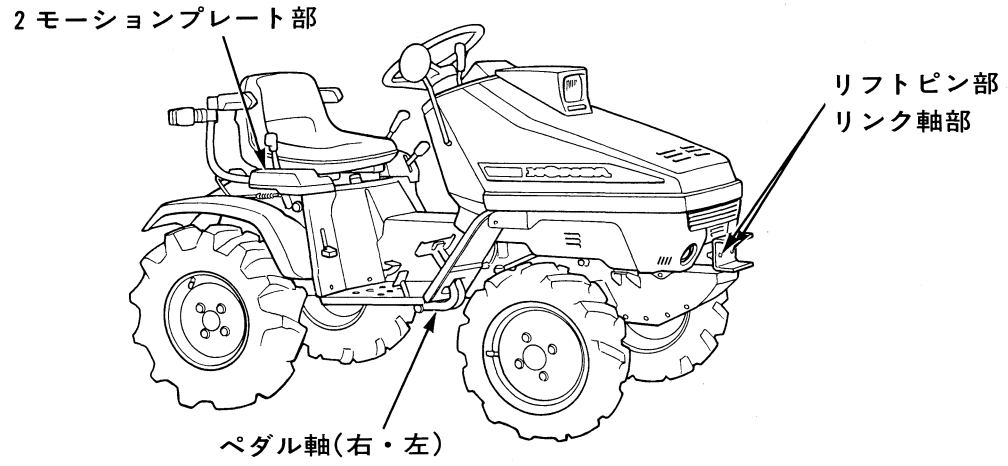
注意

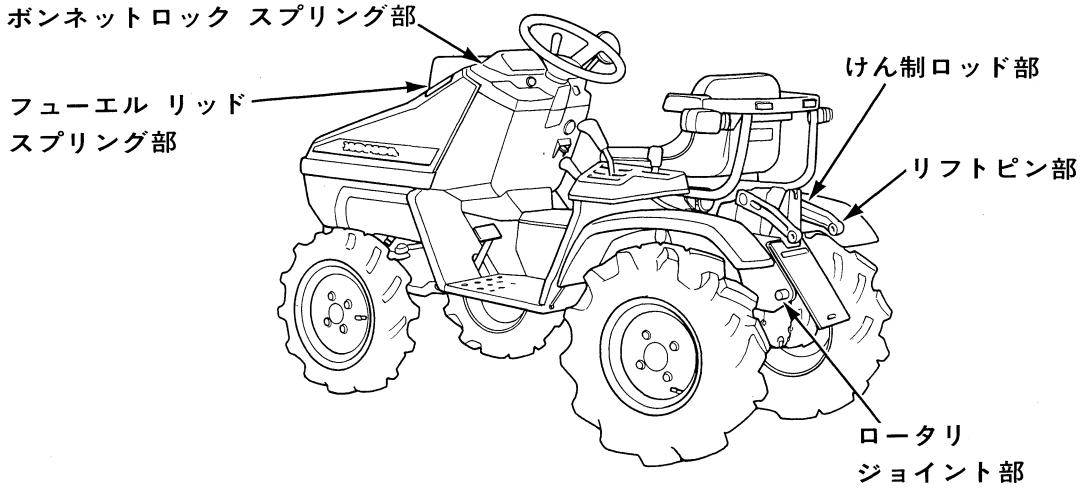
- 燃料を抜くときは火気厳禁
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 燃料タンク内のガソリンを抜くときは、エンジンと排気装置が完全に冷えてから行ってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

3.エンジン オイルを交換してください。

交換方法は、42頁を参照してください。

4.各部にグリースを塗布してください。





5.タイヤの空気圧は、標準より少し多めに入れてください。

6.各部の配線、バッテリ コード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コード クランプの外れは確実に点検、整備してください。

7.バッテリ アースコードを端子から外してください。また、格納中バッテリは１ヶ月に一回完全充電してください。

8.不具合箇所は整備してください。

9.定期点検項目を確認してください。

10.駐車ブレーキをロックして、風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。

注意 本機にシートをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行ってください。

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

注意

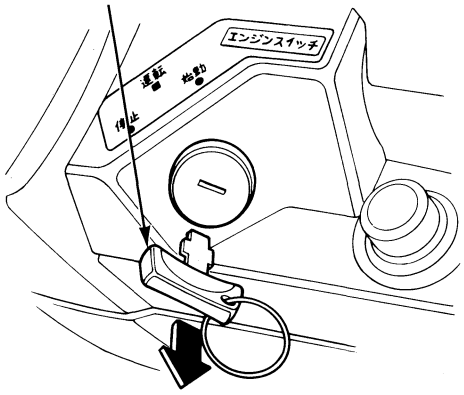
・手入れを行うときは、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、駐車ブレーキをロックして、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。

・手入れや修理には必らずホンダ純正部品を使用してください。

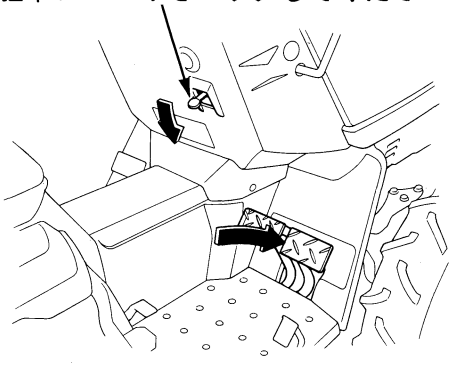
本機の高い性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。

キーを外してください

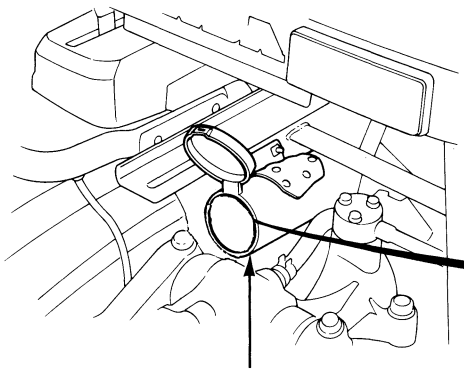


駐車ブレーキをロックしてください



携帯工具

工具は点検、整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



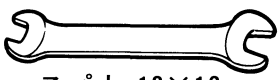
ツール ボックス



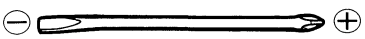
メガネ レンチ17×19



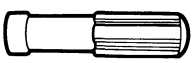
スパナ 14×17



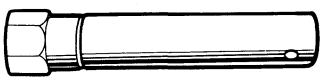
スパナ 10×12



ドライバ



ドライバ ハンドル



プラグ レンチ

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時間	作業前点検	初　回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転 毎又は1年1回
エンジンオイル　点検	○				
交換		○		○	
変速機オイル　点検				○	
油圧系　点検 オイル量、もれ	○				
バーテリー液量点検	○				
液量、比重、ターミナル点検			○		
電気配線、各ターミナルのゆるみ、 クランプの状態、絶縁状換の点検					○〈注2〉
燃料タンク　ガソリン量、もれ点検	○				
タンク及びろ過網清掃					○〈注2〉
空気清浄器(エア クリーナ)　点検	○				
清掃			○〈注1〉		
冷却空気取入口　清掃	○				
冷却フィン、シュラウド　点検	○				
締付ボルト点検、増締め	○	○	○		
タイヤ　空気圧、き裂、損傷点検	○				
タイロッドの曲がり、ボールジョイ ントのガタ点検、トーイン調整					○〈注2〉
ハンドル　遊び、ガタ点検	○				
クラッチペダル　遊び点検	○				
調整					○〈注2〉
ブレーキペダル　遊び、効き点検	○				
調整		○			○
ブレーキ摩耗限界点検	○	○			○
デフロック ペダル遊び　点検	○				
調整					○〈注2〉
駐車ブレーキ　点検 作動、警報ブザー	○				
前照灯　点検	○				
方向指示器　点検	○				
警音器(ホーン)　点検	○				
点火プラグ　点検、清掃				○	
燃料ろ過カップ　清掃					○
各部のゆるみ点検、増締め 各部給油及びグリス塗布					○
エンジン回転　調整					○〈注2〉
吸入排気弁陳間　調整					○〈注2〉
燃料チューブ　交換	3年毎〈注2〉				

〈注1〉ホコリの多い所で使用した場合、空気清浄器(エア クリーナ)の清掃は、10時間または1日1回行ってください。

〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

点検、整備は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。

安全装置機構の点検

注意
- 点検する前に本機の前後に人や障害物がないことを確認してください。
- 正しい運転手順で運転しないと安全装置機構が働いてエンジンが始動しないようになっています。
- 安全装置機構に異常がある時は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

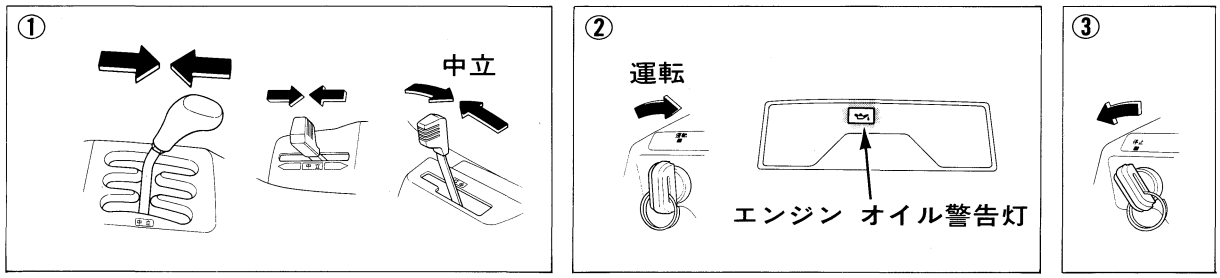
次の点検を行う時は、シートにすわり、駐車ブレーキをかけて行ってください。

1．オイル レベル スイッチの点検

①主変速レバー、P.T.O軸変速レバー、リフトレバーを〝中立〟位置にしてください。

②エンジン スイッチ キーを〝運転〟の位置にした後、エンジン オイル警告灯が一定時間点灯後消灯することを確認してください。

③エンジン スイッチ キーを〝停止〟の位置に戻してください。



2．主変速レバーの点検

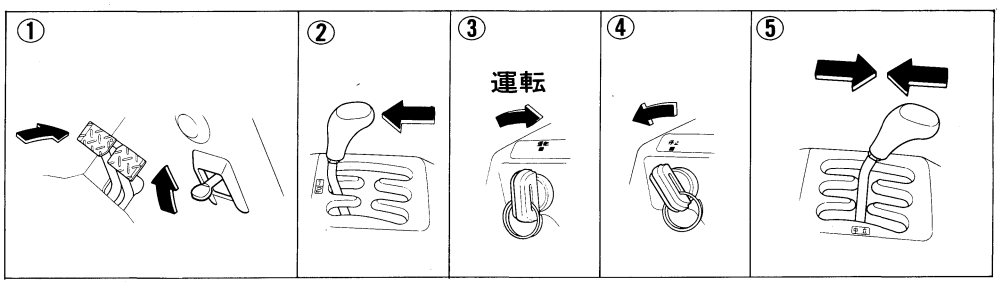
①駐車ブレーキをセットしてください。

②主変速レバーを〝1速〟または〝2速〟の低位置にしてください。

③エンジン スイッチ キーを〝運転〟の位置にして警報ブザーが鳴ることを確認してください。

④エンジン スイッチ キーを〝停止〟の位置に戻してください。

⑤主変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。



3．クラッチ スイッチの点検

①P.T.O軸変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。

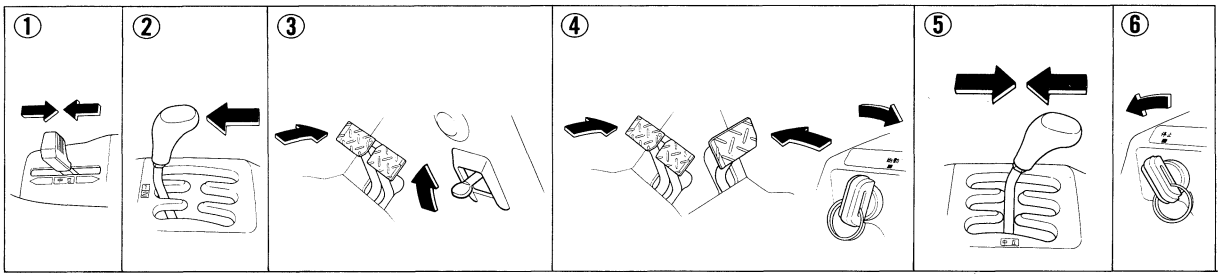
②主変速レバーを〝1速〟または〝2速〟の低速位置にしてください。

③ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキを解除してください。

④ブレーキ ペダルを踏んだままでエンジン スイッチを〝始動〟の位置にし、エンジンが始動しないことを確認してください。

⑤主変速レバーを〝中立〟の位置にしてください。

⑥エンジン スイッチ キーを〝停止〟の位置に戻してください。



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回20時間目、以後：100時間運転毎

推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)

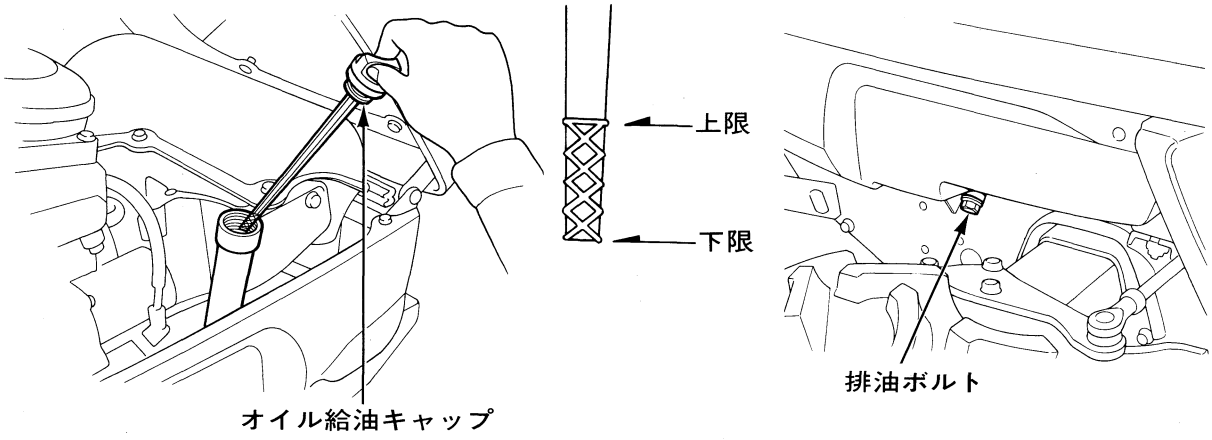
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- 低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時(気温－15℃以下)では、ホンダ純正汎用寒冷地オイルSE 5 W—30またはAPI分類SE級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。

《規定量》 1.1ℓ

オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終りましたら排油ボルトを確実に締付けして、新しいオイルを規定量入れてください。オイル給油キャップを締めてください。



空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器(エア クリーナ)が目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的に清掃してください。

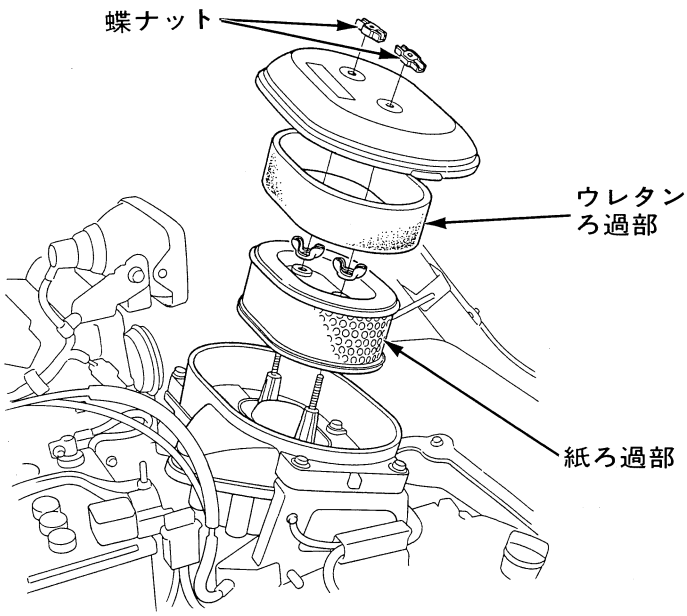
《清掃時期》

50時間運転毎、ホコリの多い場所で使用した場合は、1日1回または10時間毎。

1.ボンネットを開け、蝶ナットを外しろ過部を取り外します。

2.ウレタンのろ過部は、中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるかまたはよく絞って乾かしてください。
次にきれいなオイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

3.紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きかけるか、または、軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》100時間運転毎

《清　　掃》プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。
お買いあげ販売店をご利用ください。

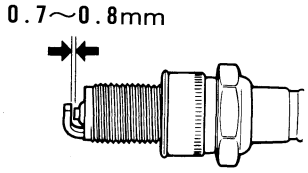
- プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

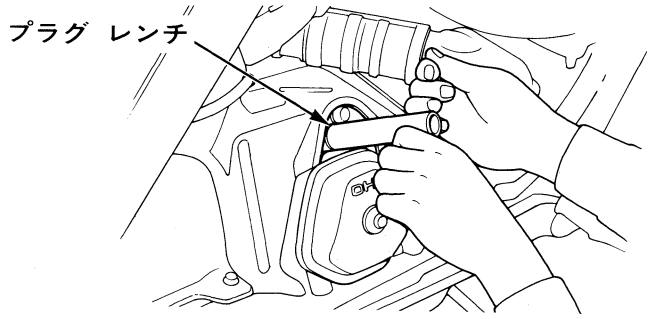
《調　　整》● 側方電極をつめ、火花すきまを0.7～0.8mmに調整してください。

《標準プラグ》

BPR6ES(NGK)

W20EPR-U(NIPPONDENSO)





注意

- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

バッテリ液量、端子の点検

《点検時期》50時間運転毎

バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《補　　給》

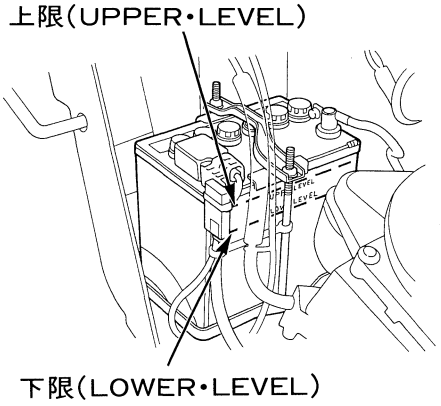
少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER・LEVEL)まで補給します。

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

注意

- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が浸されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。



ブレーキ ペダルの調整

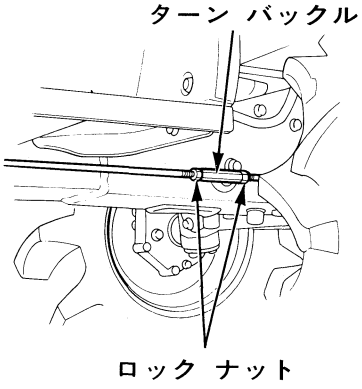
調整はロック ナット2ヶ所をゆるめ、ターンバックルを回して行います。

調整後ロック ナットを確実に締付けてください。

遊び代：25mm

注意

- ブレーキ ペダルを踏み込んで駐車ブレーキが確実にロックすることを確認してください。
- 左右のペダルの遊び代が同じになるように調整してください。



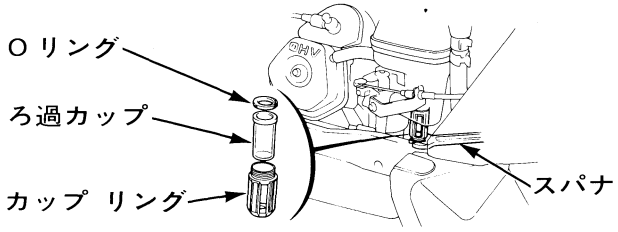
燃料ろ過カップの清掃

《**点検時期**》300時間運転毎又は1年1回

1.エンジン スイッチを〝停止〟にして、同梱のスパナでカップ ホルダを外して、燃料ろ過カップを外してください。

2.ろ過カップにたまったゴミや水分を洗浄してください。

3.Oリングを正しく取付けてろ過カップを確実に締付けてください。



注意
- 清掃時は火気厳禁
- 洗浄後ガソリン漏れのないことを確認してください。

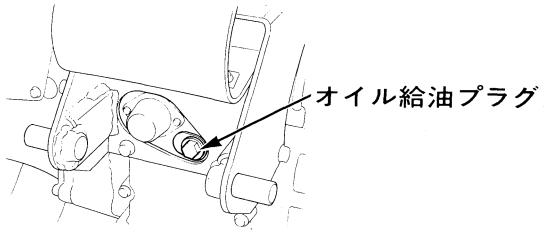
変速機オイルの点検

変速機オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。点検時期、オイル容量を守りましょう。

・本機を水平にして作業してください。

《**点検時期**》100時間運転毎

《**点　　検**》オイル給油プラグを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。
少ない場合は、注入口の口元から少したれるまで補給してください。



推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意
- 低温時(気温10℃以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-10のオイルをご使用ください。
- 寒冷時(気温－15℃以下)では、ホンダ純正汎用寒冷地オイルSE 5 W—30またはAPI分類SE級相当のSAE 5 W—30のオイルをご使用ください。
- キャップは確実に締付けてください。ゆるいとオイルが洩れることがあります。

ヒューズ交換

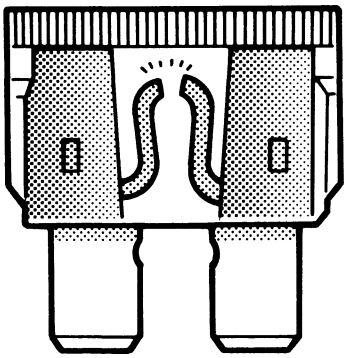
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。
そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

注意

・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

〈点検〉

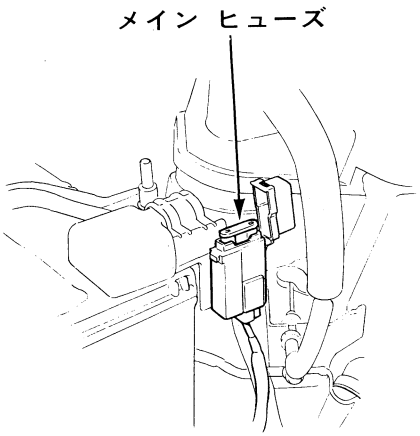
下図のようにヒューズが切れていないか点検してください。

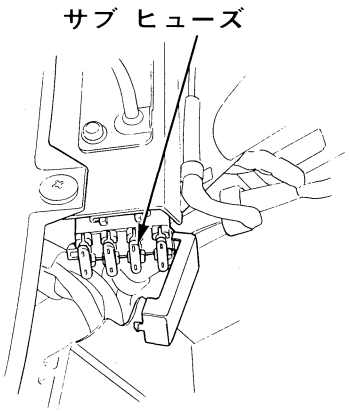


〈交換〉

メインヒューズはバッテリ横、サブ ヒューズはヘッド ライト ケースの右側にあります。

メイン ヒューズ(規定容量)：20A　　サブ ヒューズ(規定容量)：7.5A





ヘッドライト バルブの交換

交換方法

取外し

ボンネットを開け、ヘッドライト ソケットの先端をめくり上げてください。

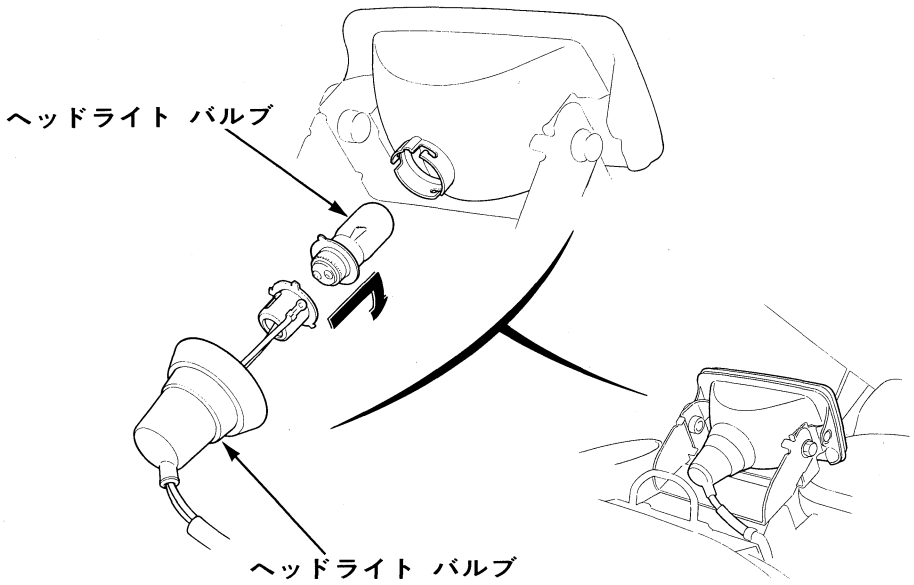
ヘッドライト バルブを押して、左に回し取外してください。

取付け

バルブの突起をヘッドライト ケースの溝に合わせて取付けてください。

押しながら右へバルブを回してください。つぎにヘッドライト ソケットをかぶせてください。

ヘッドライト バルブ(規定容量):12V 25/25W



車輪の取外し

注意

・車輪を取外す時には、必ず本機を堅い平坦な場所に置いてから行ってください。
・車輪の前、後輪に車止めをしてください。

取外し

①主変速レバーを〝低速〟の位置にしてください。

②まえもってホイール ナットを左へ１回転ゆるめてください。

③下図の位置にリジットラックを確実にかませ、車輪の取外しが出来る程度に本機を持上げてください。

④ホイール ナット、車輪を取外してください。

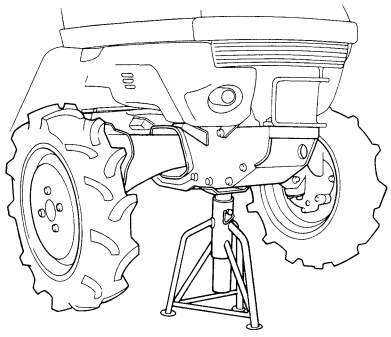
取付け

①車輪を取付け、ホイール ナットを仮締めしてください。

②本機を静かに降し、リジットラックを本機から外し、対角線に少しづつナットを締付けてください。

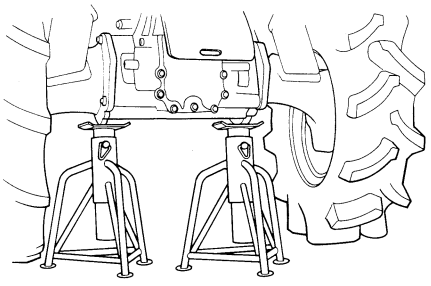
車輪締付トルク	13.0kg-m

前部

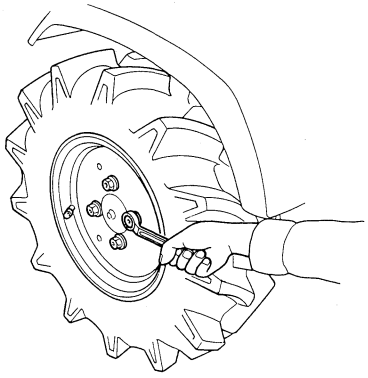


リジットラックの位置

後部



リジットラックの位置

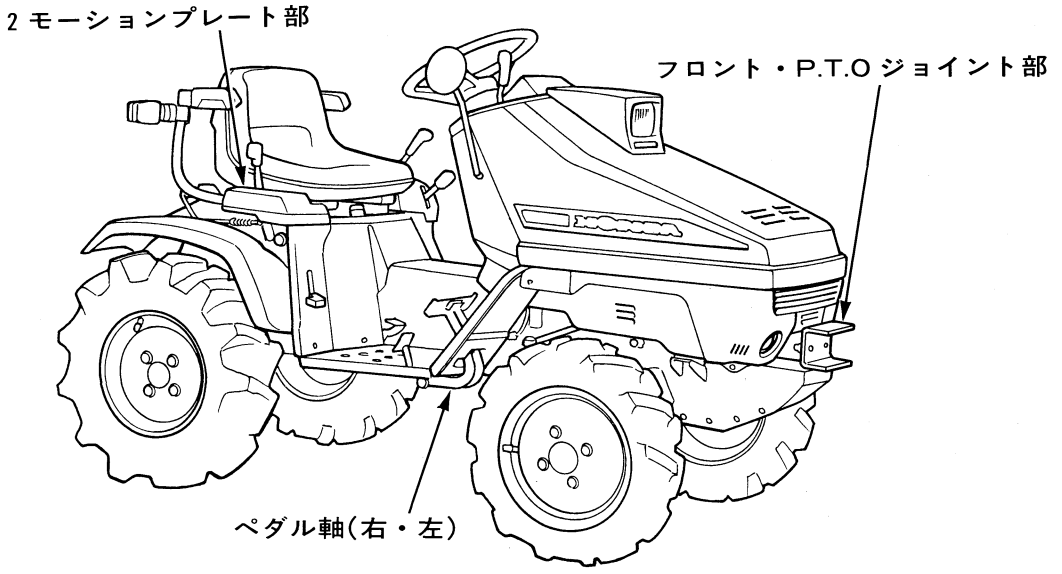


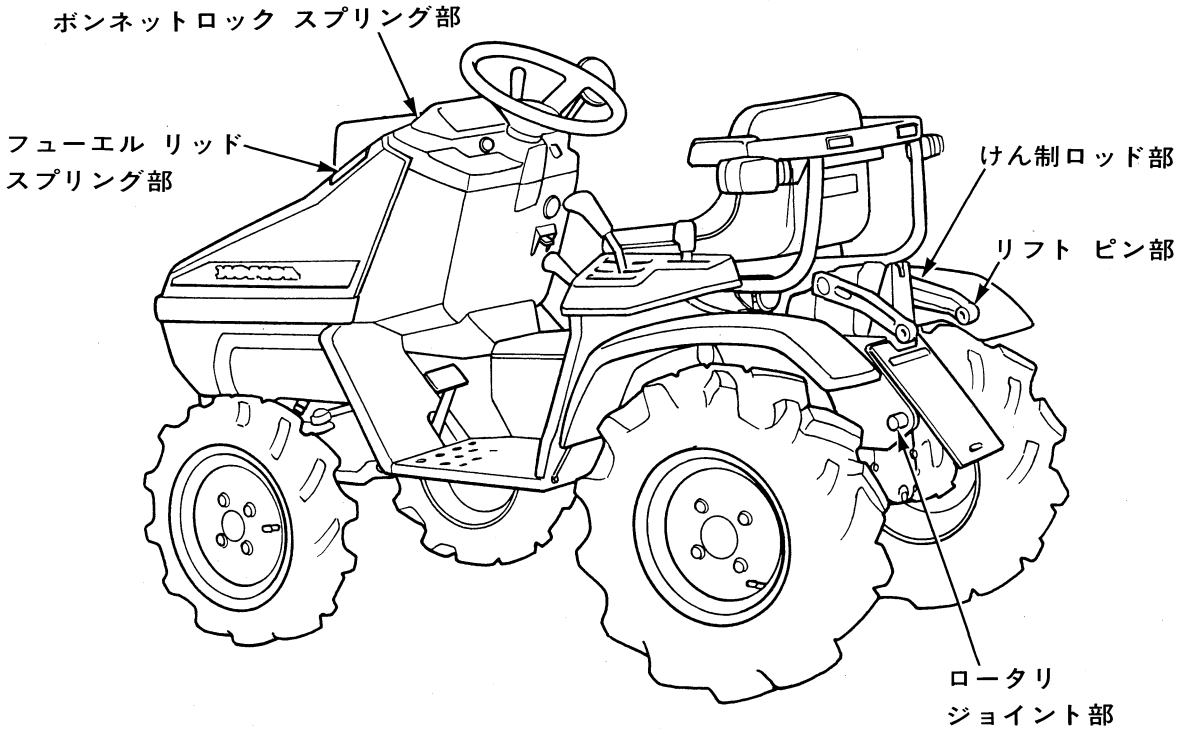
各部のゆるみ点検、増締め、各部の給油およびグリス塗布

《**点検時期**》300時間運転毎又は１年１回

・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいましたら確実に締付けを行ってください。

・給油およびグリス塗布箇所





故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが本機を長持ちさせる秘けつです。

1.スタータが回転しないときは

- クラッチ ペダルを踏み込んでいますか　→クラッチ ペダルを完全に踏み込んでから、エンジン スイッチを〝始動〟にしてください。
- バッテリ ターミナル部がゆるんでいたり腐蝕していませんか。　→ターミナル部を清掃し、確実に取付けてください。
- ヒューズが切れていませんか。　→新しいヒューズと交換してください。
- バッテリが放電していませんか。　→バッテリを充電してください。

2.スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

- ガソリンはありますか　→補給してください。(23頁参照)
- 始動手順が間違っていませんか　→正しい始動手順でやり通してください。(27頁参照)

3.エンジンの力が出ないときは

- 空気清浄器(エア クリーナ)のろ過部が目づまりしていませんか　→ろ過部を清掃してください。(22頁参照)

4.灯光装置が点灯しないときは

- エンジン スイッチが〝運転〟の位置になっていますか　→エンジン スイッチを〝運転〟にしてください。
- バルブ(電球)が切れていませんか　→新しい電球と交換してください。
- ヒューズが切れていませんか　→新しいヒューズと交換してください。

5.警音器(ホーン)が鳴らないときには、

- ヒューズが切れていませんか　→新しいヒューズと交換してください。
- エンジン スイッチが〝運転〟の位置になっていますか　→エンジン スイッチを確認してください。

6.アタッチ メント(ロータリ)が上げ下げできないときは

- 下降速度調整ノブは開いてますか　→下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。(20頁参照)
- リフト レバーが〝中立〟になっていませんか　→リフト レバーを作業に合わせて操作してください。
- 油圧用オイルは入っていますか　→オイルを規定量入れてください。(25頁参照)

7.チャージ ランプがエンジン始動後も消灯しないときは

・配線の破損、ショートなどがありませんか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

8.エンジン オイル警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・オイルは規定量入っていますか　→オイルを補給してください。(21頁参照)

9.走行中に駐車警告灯が点灯し、ブザーが鳴っているときには

・駐車ブレーキが解除されていますか　→解除してください。

10.ブレーキが片効きするときは

・各タイヤの空気圧が不均等なのではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(24頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊び量が左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(45頁参照)

・ブレーキ ペダル左右セット(連結)してありますか　→左右セット(連結)してください。

11.ハンドルが重いときは

・各タイヤの空気圧が不足していませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(24頁参照)

12.ハンドルが取られるときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(24頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊びが左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(45頁参照)

13.クラッチがすべるときは

・クラッチ ペダルの遊びは適切ですか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名称		RT1300	
タイプ		R	L
型式		FAHA(農用トラクタ)	
エンジン	名称	GX390 K1	
	型式	ホンダGCAA	
	形式	強制空冷4サイクル頭上弁式25°傾斜	
	シリンダ数	単気筒	
	総行程容積	389cm³	
	最大出力/回転速度	13PS/3600rpm	
	シリンダ内径×行程	88×64mm	
	使用燃料	無鉛ガソリン	
	始動方式	セルスタータ式	
	潤滑方式	強制飛沫式	
	冷却方式	強制空冷	
	バッテリ容量	12V—30AH(標準)	
車両寸法	全長	2010mm	2255mm
	全幅	965mm	
	全高	1250mm	
	軸距	1195mm	
	最低地上高	280mm	
輪距	前輪	790mm	
	後輪	760mm	
タイヤサイズ	前輪	4.00—12—2PR	
	後輪	7—14—2PR	
重量(装備)		390kg	410kg
PTO軸	回転速度	低速995rpm 高速1840rpm	
	軸寸法	6×23×28mm角形スプライン	
クラッチ		湿式多板	
操行装置		ピニオン&セクタギヤ	
変速方式		ギヤ選択摺動式	
変速段数		前進8段、後進4段	
駆動方式		2輪・4輪駆動切換	
最小回転半径		2.3m	
制動装置		機械式リーディング トレーリング(後2輪)	
差動装置		ベベルギヤ方式	
安全鑑定番号		1201061	
型式認定番号		農1732	

※・諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

主　要　諸　元

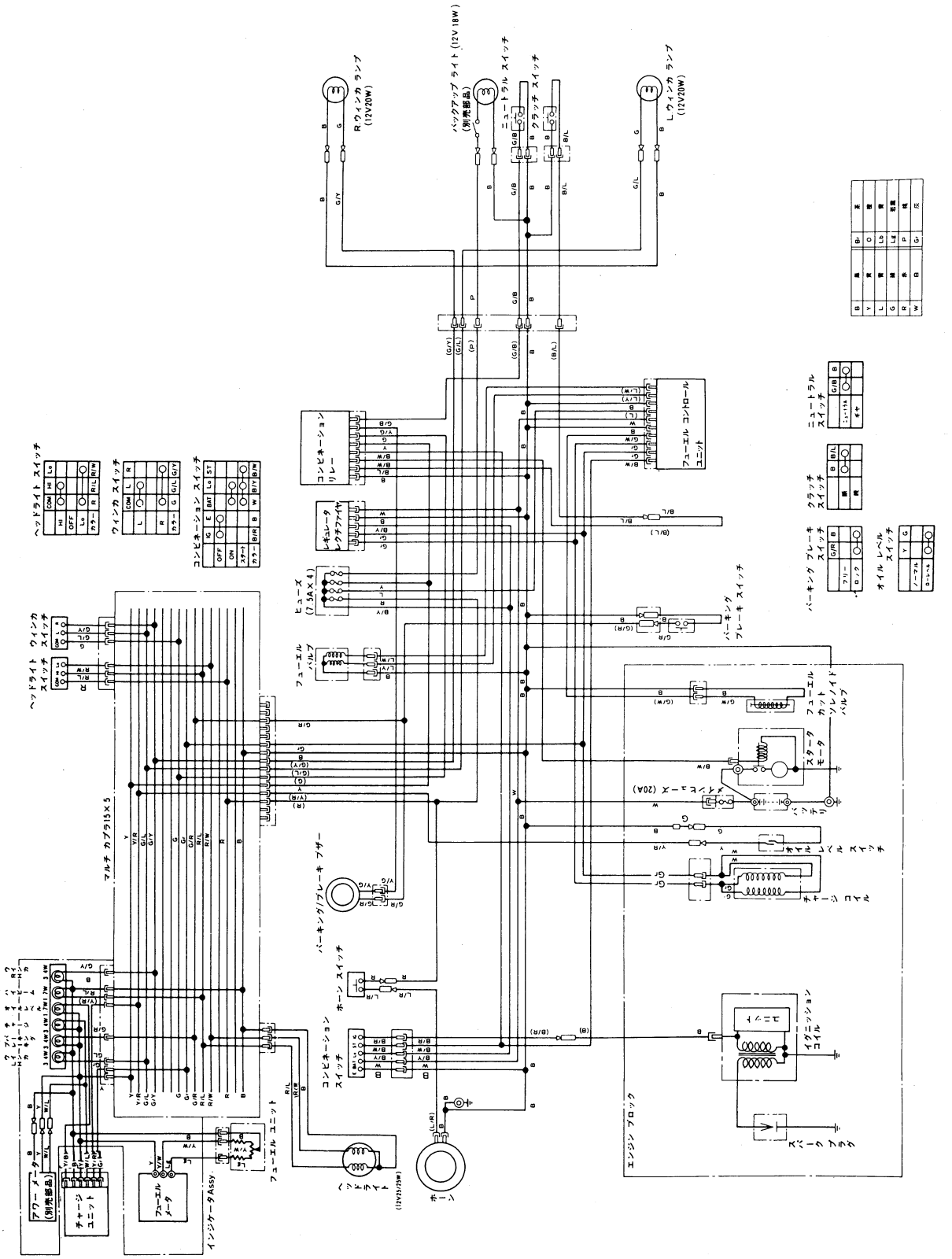
名称		RT1300
タイプ		RA
型式		FAHA(農用トラクタ)
エンジン	名称	GX390 K1
	型式	ホンダGCAA
	形式	強制空冷4サイクル頭上弁式25°傾斜
	シリンダ数	単気筒
	総行程容積	.389cm³
	最大出力/回転速度	13PS/3600rpm
	シリンダ内径×行程	88×64mm
	使用燃料	無鉛ガソリン
	始動方式	セルスタータ式
	潤滑方式	強制飛沫式
	冷却方式	強制空冷
	バッテリ容量	12V—30AH(標準)
車両寸法	全長	2010mm
	全幅	965mm
	全高	1250mm
	軸距	1195mm
	最低地上高	280mm
輪距	前輪	790mm
	後輪	760mm
サイズタイヤ	前輪	4.00—12—2PR
	後輪	7—14—2PR
重量(装備)		390kg
PTO軸	回転速度	低速995rpm 高速1840rpm
	軸寸法	6×23×28mm角形スプライン
クラッチ		湿式多板
操行装置		ピニオン&セクタギヤ
変速方式		ギヤ選択摺動式
変速段数		前進8段、後進4段
駆動方式		2輪・4輪駆動切換
最小回転半径		2.3m
制動装置		機械式リーディング トレーリング(後2輪)
差動装置		ベベルギヤ方式
安全鑑定番号		1201061
型式認定番号		農1732

※・諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

エンジン回転3,800rpm時

		副変速	主変速	Km/h
走行速度	前進	低	1	0.7
			3	1.5
			5	3.4
			7	7.0
		高	2	1.1
			4	2.4
			6	5.3
			8	11.0
	後進	低	1	0.8
			3	1.8
		高	2	1.3
			4	2.8

配　線　図


R.ウインカ ランク
(12V20W)
バックアップ ライト (12V18W)
(別売部品)
ニュートラル スイッチ
クラッチ スイッチ
L.ウインカ ランク
(12V20W)
ヘッドライト スイッチ
ウインカ スイッチ
コンビネーション スイッチ
コンビネーション リレー
レギュレータ レクチファイヤ
ヒューズ (7.5A×4)
フューエル パルプ
フューエル コントロール ユニット
ニュートラル スイッチ
クラッチ スイッチ
パーキング ブレーキ スイッチ
オイル レベル スイッチ
パーキング ブレーキ
スイッチ
マルチ カプラ15×5
ヘッドライト ウインカ スイッチ
パーキング/ブレーキ ブザー
ホーン スイッチ
コンビネーション スイッチ
フューエル ユニット
ヘッドライト
(12V25/25W)
ホーン
(12V2A)
フューエル カット ソレノイド パルプ
スタータ モータ
メイン ヒューズ (20A)
バッテリ
オイル レベル スイッチ
チャージ コイル
ユニット
イグニッション コイル
スパーク プラグ
エンジン ブロック
アワー メータ
(別売部品)
チャージ ユニット
フューエル メータ
インジケータ Assy

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買上げいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30752653
00X30-752-6530

Ⓝ3009504